

特別支援学校学習指導要領解説

知的障害 各教科の目標・内容の一覧

※「(具体的な内容の例)」の欄の記載については、特別支援学校学習指導要領解説に記されているものを参考に、段階を分けずにまとめています。実際の授業では、実態差のある学習集団での授業が想定されるためです。学習指導要領で示されている目標・内容をもとに単元目標などを設定し、具体的な活動内容を考える際などにご参考ください。

※本まとめを、実態把握や目標・内容を設定する際の参考としてご活用ください。なお、あくまでも「まとめ」ですので、必要に応じて、学習指導要領解説のご確認をお願いします。

国立特別支援教育総合研究所 研修事業部 主任研究員 真部信吾 によるまとめ

目標・内容の一覧（生活）

小学部			
教科の目標			
具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	（１）活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	（２）自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。		
学びに向かう力、人間性等	（３）自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。		
段階の目標	１段階	２段階	３段階
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気づき、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

※児童が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「思考力、判断力、表現力等」、(イ)は「知識及び技能」として整理

内容	１段階	２段階	３段階
ア 基本的生活習慣	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動	食事、用便、清潔等の基本的生活習慣に関わる学習活動	身の回りの整理や身なりなどの基本的生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動
	(ア) 簡単な身辺処理に気づき、教師と一緒に行動をとすること。 (イ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	(ア) 必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。こと。 (イ) 身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	(ア) 必要な身辺処理や集団での基本的生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。こと。 (イ) 日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。
	（具体的な内容の例） 【食事】食事の基本的動作、食事マナー、食事の準備や後片付け、一連の活動を友だちと協力 【用便】自分の排泄物への関心、尿意や便意の伝達、用便の手順、便所の使用方法 【寝起き】一人での就寝、定時の寝起き、寝床の準備や片付け 【清潔】手洗い、洗面、歯磨き、タオルで拭く等の動作、汚れた衣服の着替え、簡単な洗濯、入浴時の洗い方拭き方 【身の回りの整理】持ち物の整理、整理の仕方や収納方法 【身なり】衣服の着脱動作（ボタン、ファスナーの掛け外し等）、脱いだ服の後始末、時と場に応じた衣服の着脱、身だしなみ等		
イ 安全	危ないことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動	遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動	交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動
	(ア) 身の回りの安全に気づき、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。 (イ) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。	(ア) 身近な生活の安全に関心をもち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。 (イ) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	(ア) 日常生活の安全や防災に関心をもち、安全な生活をするよう心がけること。 (イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
	（具体的な内容の例） 【危険防止】危険な場所や小さな玩具等の取扱い、階段や段差への注意、安全な遊び方や遊具の使い方 【交通安全】信号や標識等の理解、横断歩道の安全な渡り方、自動車や自転車への注意 【避難訓練】教師と一緒に避難、避難時の適切な行動、「火事」「地震」「避難」などの言葉の理解 【防災】災害や事故の理解、地域の施設設備や安全な場所を知ること、緊急時の適切な行動等		
ウ 日課・予定	日課に沿って教師と共にする学習活動	絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取り組むことなどに関わる学習活動	一週間程度の予定、学校行事や家庭の予定などに関わる学習活動
	(ア) 身の回りの簡単な日課に気づき、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。こと。 (イ) 簡単な日課について、関心をもつこと。	(ア) 身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする。こと。 (イ) 身近な日課・予定について知ること。	(ア) 日常生活の日課・予定が分かり、およその予定を考えながら、見通しをもって行動しようとする。こと。 (イ) 日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。
	（具体的な内容の例） 【日課】生活への見通し、教師と一緒に日課に沿った行動、簡単な日課への気づき 【日課・予定】絵や写真カードによる予定の理解、一人で日課に沿った行動、次の日の予定、一週間の予定の理解、カレンダー等を見て行事や家庭の予定に沿った行動、予定変更への対応等		

内容	1 段階	2 段階	3 段階
エ 遊び	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動	教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動	日常生活の中での遊びに関わる学習活動
	(ア)身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。	(ア)身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしたりすること。	(ア)日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。
	(イ)身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	(イ)簡単なきまりのある遊びについて知ること。	(イ)きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。
	(具体的な内容の例) 【いろいろな遊び】自分の好きな遊び、ごっこ遊び、遊具での遊び、教師や友だちと鬼ごっこなどの簡単なルールのある遊び、遊び場や遊具の共有、順番や交代などの約束、勝敗、役割の理解 【遊具の後片付け】教師と一緒に片付けること自分から片付けること、準備から片付けまでの一連の流れの理解、友だちと協力して片付けること		
オ 人との関わり	小さな集団での学習活動	身近な人と接することなどに関わる学習活動	身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動
	(ア)教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。	(ア)身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする。	(ア)身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする。
	(イ)身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	(イ)身近な人との接し方などについて知ること。	(イ)身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。
	(具体的な内容の例) 【自分自身と家族】自分自身の紹介等、名前を呼ばれた時の応答（身振り、表情、発声等）、家族のこと、仕事や兄弟姉妹関係について簡単に話すこと 【身近な人との関わり】教師や友だちなどの名前、挨拶、握手、多様な方法（身振り、表情、絵カード等）によるコミュニケーション、主体的な挨拶、見聞きたことや遊んだことについて話すこと、教師や友だちと話し合うこと 【電話や来客の取次ぎ】来訪や電話があったことへの関心、初歩的な伝言、来客や電話での適切な取次ぎ 【気持ちを伝える応対】気持ちを表す言葉の理解、適切な場面での「ありがとう」や「ごめんなさい」、御礼や謝罪の気持ちを相手に理解してもらえよう伝えるような伝え方		
カ 役割	学級等の集団における役割などに関わる学習活動	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動	様々な集団や地域での役割に関わる学習活動
	(ア)身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする。	(ア)身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする。	(ア)様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする。
	(イ)集団の中での役割に関心をもつこと。	(イ)簡単な係活動などの役割について知ること。	(イ)集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
	(具体的な内容の例) 【集団の参加や集団内での役割】集団に慣れること、行事への参加、係活動、様々な集団活動での準備や役割を主体的に果たすこと 【地域の行事への参加】地域の行事への参加、簡単な買い物、友だちとの活動、地域の人との協力、準備や後片付け 【協同での作業と役割分担】簡単な共同作業、簡単な役割と友だちとの協力、作業分担や役割の理解		
キ 手伝い・仕事	教師と一緒に印刷物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに関わる学習活動	人の役に立つことのできる手伝いや仕事に関わる学習活動	自分から調理や製作などの様々な手伝いをすることや学級の備品等の整理などに関わる学習活動
	(ア)身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする。	(ア)教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする。	(ア)日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする。
	(イ)簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。	(イ)簡単な手伝いや仕事について知ること。	(イ)手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。
	(具体的な内容の例) 【手伝い】物や印刷物などの配布、教材の運搬の手伝い、作業の手伝い、道具や器具の取扱いと安全な仕事の手伝い 【整理整頓】所持品の整理、友だちや学級の物（備品を含む）の整理、不要物の選別と廃棄、ロッカーの整理 【戸締まり】窓や鍵の開け閉め、施錠方法、開け閉めの意味理解、開け閉めの程度 【掃除】身の回りのゴミなどを拾うこと、掃除用具の名称や使用、一人で簡単な掃除、教室内や分担された場所の掃除 【後片付け】（使用した）道具や材料などの片付け、所定の場所への片付け、手伝いや仕事の終了時の報告		
ク 金銭の扱い	簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動	金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動	価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動
	(ア)身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとする。	(ア)身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。	(ア)日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。
	(イ)金銭の扱い方などに関心をもつこと。	(イ)金銭の扱い方などを知ること。	(イ)金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
	(具体的な内容の例) 【金銭の扱い】金銭の価値、硬貨や紙幣の種類、種類毎の分類や数えること、財布や貯金箱への保管、両替 【買い物】買い物の流れの理解、買い物（決まった額の買い物、目的に応じた買い物、おつりのある買い物）、買い物に必要なコミュニケーション 【自動販売機等の利用】自動販売機の利用方法、自動販売機の種類、一人で操作		

内容	1 段階	2 段階	3 段階
ケ きまり	学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動	順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまりやマナーに関わる学習活動	学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動
	(ア)身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする。	(ア)身近で簡単なきまりやマナーに気が付き、それらを守って行動しようとする。	(ア)日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする。
	(イ)簡単なきまりについて関心をもつこと。	(イ)簡単なきまりやマナーについて知ること。	(イ)簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
	(具体的な内容の例) 【自分の物と他人の物の区別】自他の物の区別、他人の物の借り方、適切な方法での貸し借り、落とし物の扱い 【学校のきまり】きまりを守ることの意義理解、学校の決まりを守ること、簡単なきまりの相談 【日常生活のきまり】社会生活（公共施設、公共機関、交通等）のきまりを守ること 【マナー】食事のマナー、公共の場でのマナー		
コ 社会の仕組みと公共施設	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動
	(ア)身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気が付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア)教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気が付き、それらを表現しようとする。	(ア)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。
	(イ)身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	(イ)身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	(イ)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。
	(具体的な内容の例) 【家族・親戚・近所の人】家族・親戚・近所の人の名前や職業、家族や身近な地域の役割 【学校】学校の場所や学校で働く人と自分との関わり、教室の名称、学校で働く人の職業名 【いろいろな店】店の種類や名前、色々な種類の店や商品、商品の名前、生産や流通 【社会の様子】住んでいる地域の街や自然の様子（公共施設、公園、河川等）、隣接する市町の名称、産業への関心 【公共施設の利用】身近な公共施設の名称や利用、警察署や消防署などへの訪問、公共施設の役割の理解 【交通機関の利用】電車やバスの名称や利用、切符の購入や料金の支払い、目的地までの利用		
サ 生命・自然	教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動	身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動
	(ア)身の回りにある生命や自然に気が付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア)身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	(ア)日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。
	(イ)身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	(イ)身近な生命や自然について知ること。	(イ)日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
	(具体的な内容の例) 【自然との触れ合い】自然（公園、川、山等）の中での遊び、自然を利用した遊び、自然の現象の変化 【動物の飼育・植物の栽培】小動物や草花の観察、飼育、栽培、飼育や栽培環境の調整 【季節の変化と生活】天気や空の様子や変化、昼と夜（太陽、月、星）の関係、季節の特徴		
シ ものの仕組みと働き	身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動	身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動	日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動
	(ア)身の回りにあるものの仕組みや働きに気が付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア)身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。	(ア)日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。
	(イ)身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。	(イ)身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。	(イ)ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。
	(具体的な内容の例) 【物と重さ】重さ（重い、軽い）の理解、物の形の変化と重さの関係 【風やゴムの力の働き】風やゴムの力による物の動きの理解、風やゴムの力の強弱と物の動きの変化の関係		

目標・内容の一覧（国語）

小学部			
教科の目標			
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	（１）日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	（２）日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	（３）言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。		
段階の目標	１段階	２段階	３段階
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

※児童が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	１段階	２段階	３段階
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方		
	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることに。	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることに。 (イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。 (ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。 (ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。 (エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (オ) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。 (カ) 正しい姿勢で音読すること。
	（具体的な内容例） ・教師や友だちの働きかけへの反応、音声模倣などによる発声等、音声の高低や抑揚への気付き、言葉のリズムや音韻への気付き ・言葉を用いた関わり、音声の口調や速度への気付き、感情や要求が相手に伝わることへの気付き ・平仮名への関心、自分の名前、友だちの名前、物の名前、動詞や形容詞 ・発声や発音のための唇や舌の使い方、促音や長音が含まれた絵本、平仮名や片仮名や漢字などの取扱い ・文の構成の理解、文章理解、音読姿勢		
			イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方 (ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。 (イ) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。
	（具体的な内容の例） ・言葉による物事の内容理解（始めと終わり、時間や手順にそった順序性への気付き）、物事の他者との共有 ・目的をもった図書資料の使用		
	イ 我が国の言語文化	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	ウ 我が国の言語文化 (ア) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。

内容	1段階	2段階	3段階
知識及び技能	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ⑧筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。 (I)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ⑧写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。 (I)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ⑧姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。 (I)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。
	(具体的な内容の例) - 昔話、わらべ歌、言葉遊びなどでの音まねや動作化、昔話や童謡の歌詞の読み聞かせ、神話や伝承などの劇や音読発表 - クレヨン・筆・鉛筆・水性／油性ペンなどを使用した活動（運筆への基本動作）、正しい持ち方や姿勢、なぞり書き、平仮名や片仮名 - 読み聞かせによる本への関心、絵本や図鑑などの種類の理解と関心、紙芝居やペープサート、写真や映像などの理解 等		
思考力・判断力・表現力等	A 聞くこと・話すこと		
	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。 イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。 ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。 エ 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。 イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。 ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。 エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。 カ 相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。
	(具体的な内容の例) - 教師の言葉かけや身振り、絵本の挿絵や写真の提示などによる話しかけへの応答（話し手を見る、表情、身振り、指さし、返事、音声模倣、簡単な言葉等） - 身近な人との言葉を用いたやり取りの中で、意味や言葉から連想される言葉をイメージすること 「図書室に絵本を返す。」などの3語から4語文の理解、指示を聞いての行動 - 映像や写真などを手掛かりにして、体験や経験をしたことを振り返り、伝えたいことを自分の知っている言葉でイメージしたり、考えること - 友だちの発表を聞いて、「同じ」や「違う」などと比べること、じぶんの思いや意見を発表すること - 日常生活の挨拶、遊びに必要な言葉でのやり取りに慣れること、友だちと一緒に簡単な台詞のある劇をすること - 身近な人との電話での受け答え - 正しい発音、距離や場面に応じた声の大きさの調整 等		
	B 書くこと		
	ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 文字に興味をもち、書こうとすること。	ア 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	ア 身近で見聞きたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。 イ 見聞きたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。 ウ 見聞きたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。 エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。 オ 文などに対して感じたことを伝えること。
(具体的な内容の例) - 文字や書くことへの興味・関心 - クレヨン・筆・鉛筆・水性／油性ペンなどを使用した活動（運筆への基本動作） - 具体物や絵、写真等と、単語や文字カードのマッチング - なぞり書き（点線の上をなぞって書く等）、簡単な図形の模写 - 正しい持ち方や姿勢 - 平仮名（簡単な語句の書き写し、自分の名前、物の名前、短い文、簡単な日記等） - 片仮名（学習用具〔ノートやクレヨン等〕、給食の献立〔パンやカレー等〕などの日常生活で見聞きする語句等） - 経験したことを絵や写真などから選んで指さしや身振り、言葉等で表現すること、経験したことをノートに書き出したり順序立てて書いたりすること - 漢字（自分の名前等） - 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方 等			

内容	1段階	2段階	3段階
思考力・ 判断力・ 表現力等	C 読むこと		
	ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気づき、注目すること。 イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。 イ 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。 ウ 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気づき、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。 エ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。 イ 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。 エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。
	（具体的な内容の例） ・絵本や紙芝居などに出てくる身近な事物や生き物、出来事への興味・関心、指さし等で知らせること ・場所を表す絵や写真から行きたい場所を一つ選択 ・「○」「×」の理解、「×」という記号を見て行動を抑制すること ・絵本を見聞かし、言葉のもつ音やリズムを楽しみながら模倣すること ・絵本の絵や題名を見て登場人物や場面の様子について言葉や身振り等で表現すること ・「はじめ」や「さいご」といった言葉の理解、時間の経過を捉えること ・校内や登下校等で見かけるシンボルマークや標識の理解、それに応じた行動 ・絵本や経験から好きな場面を教師や友達に伝えること、好きな言葉を模倣すること ・絵本や易しい読み物の挿絵を手掛かりに、登場人物の行動や場面の様子などを想像すること、挿絵を並び替えること、簡単な小見出し等を付けること、書かれている内容のおおよそを捉えること ・家庭や学校、地域での生活に必要なきまりや標識の文字や記号、絵などの理解、それに応じた行動 ・読み物の音読や演じること ・片仮名（学習用具〔ノートやクレヨン等〕、給食の献立〔パンやカレー等〕などの日常生活で見聞きする語句等） ・漢字（自分の名前、曜日、漢数字等） ・お店やお菓子の名前等に表記されたローマ字への関心		

等

目標・内容の一覧（算数）

小学部				
教科の目標				
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
知識及び技能	（１）数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。			
思考力、判断力、表現力等	（２）日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。。			
学びに向かう力、人間性等	（３）数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。			
段階の目標		１段階	２段階	３段階
知識及び技能	A数量の基礎	ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。		
	A数と計算（１段階はB）	ア ものの有無や３までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わることにについての技能を身に付けるようにする。	ア 10 までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることにについての技能を身に付けるようにする。	ア 100 までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。
	B図形（１段階はC）	ア 身の回りのものの上下や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わることにについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形の観察などの活動を通して、図形についての感覚を豊かにするとともに、ものについて、その形の合同、移動、位置、機能及び角の大きさの意味に関わる基礎的な知識を理解することなどについての技能を身に付けるようにする。
	C測定（１段階はD）	ア 身の回りにあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることにについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かることと、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技能を身に付けるようにする。
	Dデータの活用		ア 身の回りのものや身近な出来事につながりに関心を持ち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法についての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある事象を、簡単な絵や図を用いて整理したり、記号に置き換えて表したりしながら、読み取り方について理解することについての技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	A数量の基礎	イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。		
	A数と計算（１段階はB）	イ 身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。	イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。	イ 日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。
	B図形（１段階はC）	イ 身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。	イ 身の回りのものの形に関心を持ち、分類したり、集めたりして、形の性質に気付く力を養う。	イ 身の回りのものの形に着目し、ひびたり重なる形、移動、ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作をして考える力を養う。
	C測定（１段階はD）	イ 身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。	イ 量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。	イ 身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。
	Dデータの活用		イ 身の回りのものや身近な出来事につながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。	イ 身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ数を記号で表現したりして、考える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	A数量の基礎	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。		
	A数と計算（１段階はB）	ウ 数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
	B図形（１段階はC）	ウ 図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 図形や数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
	C測定（１段階はD）	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
	Dデータの活用		ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。

※児童が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	1 段階	2 段階	3 段階
A 数量の基礎	ア 具体物に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ㊧ 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。		
	イ ものともとの対応させることに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ ものともとの対応させて配ること。 ㊧ 分割した絵カードを組み合わせること。 ㊨ 関連の深い絵カードを組み合わせること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ ものともとの関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。		
	(具体的な内容の例) ・具体物を使用した一対一対応（盆や皿などを一人に一つずつ配ること等） ・絵カード等の半具体物による、分割した絵カードの組み合わせや、キリンとゾウ、みかんとバナナなどの関連の深い絵カードの組み合わせ		
A 数と計算 (1 段階は B)	ア 数えることの基礎に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ ものの有無に気付くこと。 ㊧ 目の前のものを、1 個、2 個、たくさんで表すこと。 ㊨ 5 までの範囲で数唱をすること。 （4 は「し」と唱えることを基本とし、「よん」の読み方は 2 段階で学習する。） ㊩ 3 までの範囲で具体物を取ることを。 ㊦ 対応させてものを配ること。 ㊦ 形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付く、それらを学習や生活で生かすこと。	ア 10 までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ ものともとの対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。 ㊧ ものの集まりと対応して、数詞が分かること。 ㊨ ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。 ㊩ 個数を正しく数えたり書き表したりすること。 ㊦ 二つの数を比べて数の大小が分かること。 ㊦ 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。 ㊦ 0 の意味について分かること。 ㊦ 一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。 ㊦ 具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみることを。 ㊦ 10 の補数が分かること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	ア 100 までの整数の表し方に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 20 までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。 ㊧ 100 までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。 ㊨ 数える対象を 2 ずつや 5 ずつのまとまりで数えること。 ㊩ 数を 10 のまとまりとして数えたり、10 のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。 ㊦ 具体物を分配したり等分したりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。
			イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。 ㊧ 加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊨ 1 位数と 1 位数との加法の計算ができること。 ㊩ 1 位数と 2 位数との和が 20 までの加法の計算ができること。 ㊦ 減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。 ㊦ 減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊦ 20 までの数の範囲で減法の計算ができること。

内容	1 段階	2 段階	3 段階
A 数と計算 (1 段階は B)			(イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすること。
	(具体的な内容の例) 上記内容を参考		
B 図形 (1 段階は C)	ア ものの類別や分類・整理に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ① 形を観点に区別すること。 ② 形が同じものを選ぶこと。 ③ 似ている二つのものを結び付けること。 ㊧ 関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること。 ㊨ 同じもの同士で集合づくりをすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 対象物に注意を向け、対象物の存在に気づき、諸感覚を協働させながら具体物を捉えること。 ① ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気づき、日常生活の中で関心をもつこと。 ② ものともとの関係に注意を向け、ものの属性に気づき、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見付け出し、日常生活で生かすこと。	ア ものの分類に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 色や形、大きさに着目して分類すること。 ① 身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。	ア 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。 ① 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ② 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ① 身の回りにあるものの形を図形として捉えること。 ② 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすること。
		イ 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 身の回りにあるものの形に関心を持ち、丸や三角、四角という名称を知ること。 ① 縦や横の線、十字、△や口をかくこと。 ② 大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身の回りにあるものの形に関心に向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。	イ 角の大きさに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 傾斜をつくると角ができることを理解すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現すること。
	(具体的な内容の例) 上記内容を参考		
	ア 身の回りにある具体物のもつ大きさに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。 ① ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 大小や多少等で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	ア 身の回りにある具体物の量の大きさに着目し、二つの量の大きさに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。 ① 二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。 ② 長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	ア 身の回りのものの量の単位と測定に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 ① 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。
			イ 時刻や時間に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 日常生活の中で時刻を読むこと。 ① 時間の単位(日、午前、午後、時、分)について知り、それらの関係を理解すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。
	(具体的な内容の例) 上記内容を参考		
C 測定 (1 段階は D)			
	(具体的な内容の例) 上記内容を参考		

内容	1段階	2段階	3段階
D データの活用		ア ものの分類に関わる数学的活動	ア 身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関わる数学的活動
		(ア) 知識及び技能 ㊦ 身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心を向け、共通点や相違点を考えながら、興味をもって分類すること。	(ア) 知識及び技能 ㊦ ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。 ㊧ 身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。
		イ 同等と多少に関わる数学的活動	
		(ア) 知識及び技能 ㊦ ものともとの対応させることによって、ものの同等や多少がわかること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。	
		ウ ○×を用いた表に関わる数学的活動	
	(具体的な内容の例) ・コップと歯ブラシなどの「組になるもの」を結びつること ・給食の配膳等で「足りない」、「余っている」といった多少や「同じ」といった同等の理解 ・的当てゲーム等で当たったら○、当たらなかったら×など簡単な記号を用いた表の作成や記号の意味理解 ・天気調べ等の日常生活に関連する記録方法やボウリング遊び等のゲーム結果などを簡単な記号を用いた表で表し、数を数えたり、「～より多い、少ない」や「～と同じ」などと比較したりすること		
(数学的活動)	ア 内容の「A数量の基礎」、「B数と計算」、「C図形」、「D測定」に示す学習について、次のような数学的活動に取り組む。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「Dデータの活用」に示す学習について、次のような数学的活動に取り組む。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「Dデータの活用」に示す学習について、次のような数学的活動に取り組む。
	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形に関わる活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりする活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、算数に主体的に関わる活動
	(イ) 日常生活の問題を取り上げたり算数の問題を具体物などを用いて解決したりして、結果を確かめる活動	(イ) 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動	(イ) 日常生活の事象から見いだした算数の問題を、具体物、絵図、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動
	(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物などを用いて表現する活動	(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物などを用いて表現する活動	(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や絵図、式などを用いて表現し、伝え合う活動
	(具体的な内容の例) ・見たり、触れたりするなどの視覚や触覚等で判断し表現すること ・生活の中で、具体物を配り、なくなったという事実を確認すること ・ものの個数を比較する際に、数えずに一対一対応させ多少を確認すること ・問題に対してどのような解決策をとったかということを、具体物や絵図、式などで表し、解決の仕方について振り返ること		

目標・内容の一覧（音楽）

小学部			
教科の目標			
表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	（１）曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	（２）感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。		
学びに向かう力、人間性等	（３）音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。		
段階の目標	1 段階	2 段階	3 段階
知識及び技能	ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しむものにしようとする態度を養う。	ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。	ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

※児童が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「思考力、判断力、表現力等」、(イ)及び(ウ)は「知識及び技能」として整理

内容	1 段階	2 段階	3 段階
A 表現	ア 音楽遊びの活動 （ア）音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。 （イ）表現する音や音楽に気付くこと。 （ウ）思いに合った表現をするために必要な次の㉔から㉗までの技能を身に付けること。 ㉔ 音や音楽を感じて体を動かす技能 ㉕ 音や音楽を感じて楽器の音を出す技能 ㉖ 音や音楽を感じて声を出す技能	ア 歌唱の活動 （ア）歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。 （イ）次の㉔及び㉕について気付くこと。 ㉔ 曲の特徴的なリズムと旋律 ㉕ 曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉 （ウ）思いに合った表現をするために必要な次の㉔から㉗までの技能を身に付けること。 ㉔ 範唱を聴いて、曲の一部分を模唱する技能 ㉕ 自分の歌声に注意を向けて歌う技能 ㉖ 教師や友達と一緒に歌う技能	（ア）歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。 （イ）次の㉔及び㉕について気付くこと。 ㉔ 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり ㉕ 曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり （ウ）思いに合った歌い方で歌うために必要な次の㉔から㉗までの技能を身に付けること。 ㉔ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能 ㉕ 自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う技能 ㉖ 教師や友達と一緒に声を合わせて歌う技能
	（具体的な内容の例） ・楽器の音への興味、触れること ・バチなどを使って音を出すこと ・音楽が流れる中で体を揺らすこと、動きを止めて聴くこと、発声すること 等	（具体的な内容の例） ・なじみの歌、好きな歌、特徴的で分かりやすいところがある歌、繰り返しのある歌などの一部分を歌うこと、抑揚をまねて声をだすこと、体でリズムを取って表現すること ・範唱を聴くこと、教師や友達と一緒に歌うこと ・リズム、強弱、音や声の大きさを意識した表現 等	
		イ 器楽の活動 （ア）器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。 （イ）次の㉔及び㉕について気付くこと。 ㉔ 拍や曲の特徴的なリズム ㉕ 楽器の音色の違い	（ア）器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。 （イ）次の㉔及び㉕について気付くこと。 ㉔ リズム、速度や強弱の違い ㉕ 演奏の仕方による楽器の音色の違い

内容	1 段階	2 段階	3 段階
A 表現		(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の㉔から㉖までの技能を身に付けること。 ㉔ 範奏を聴き、模倣をして演奏する技能 ㉔ 身近な打楽器を演奏する技能 ㉖ 教師や友達と一緒に演奏する技能	(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の㉔から㉖までの技能を身に付けること。 ㉔ 簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能 ㉔ 身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ㉖ 教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する技能
	(具体的な内容の例) ・タンバリン(両手で操作)、ウッドブロック、ギロ、木琴、キーボードなどの楽器の演奏、音色の違いなどの意識 ・拍やリズムを意識した演奏 ・教師の合図を手掛かりに友達と一緒に演奏 ・楽譜による「♪」(タンタン)」「♪♪(タタタタ)」「♪♪♪(タンウンタンウン)」などのリズム練習、楽器の絵を順番に並べて描いた絵譜、「ドミドミ」のような文字で音符や旋律を描いた楽譜を使った演奏 ・鍵盤楽器、リコーダー、短音グロッケン、ハンドベルなどの楽器の演奏 等		
		ウ 音楽づくりの活動 (ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉔及び㉔をできるようにすること。 ㉔ 音遊びを通して、音の面白さに気付くこと。 ㉔ 音や音楽で表現することについて思いをもつこと。 (イ) 次の㉔及び㉔について、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。 ㉔ 声や身の回りの様々な音の特徴 ㉔ 音のつなげ方の特徴 (ウ) 気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次の㉔及び㉔の技能を身に付けること。 ㉔ 音を選んだりつなげたりして、表現する技能 ㉔ 教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる技能	
		(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉔及び㉔をできるようにすること。 ㉔ 音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ㉔ どのように音を音楽にしていかにについて思いをもつこと。 (イ) 次の㉔及び㉔について、それらが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ㉔ 声や身の回りの様々な音の特徴 ㉔ 簡単なリズム・パターンの特徴 (ウ) 気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の㉔及び㉔の技能を身に付けること。 ㉔ 音を選んだりつなげたりして表現する技能 ㉔ 教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能	
	(具体的な内容の例) ・リズムの模倣や言葉で唱えるなどのリズム打ち遊び、言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び、身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見つけて表現する遊び ・簡単なリズム・パターンの演奏 ・呼びかけと答えになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動、擬声語や擬態語などの言葉のリズムにのせて反復したり組み合わせたりする活動 等		
		エ 身体表現の活動 (ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。 (イ) 次の㉔及び㉔について気付くこと。 ㉔ 拍や曲の特徴的なリズム ㉔ 曲名と動きとの関わり (ウ) 思いに合った動きで表現するために必要な次の㉔から㉖までの技能を身に付けること。 ㉔ 示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能 ㉔ 音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技能 ㉖ 教師や友達と一緒に体を動かす技能	
		(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。 (イ) 次の㉔及び㉔の関わりについて気付くこと。 ㉔ 曲のリズム、速度、旋律 ㉔ 曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部 (ウ) 思いに合った体の動きで表現するために必要な次の㉔から㉖までの技能を身に付けること。 ㉔ 示範を見たり、拍やリズム、旋律を意識したりして、身体表現をする技能 ㉔ 音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能 ㉖ 教師や友達と一緒に体を使って表現する技能	
	(具体的な内容の例) ・「マーチ」「タンゴ」「そうさん」「うさぎのダンス」といったそれぞれの曲に見られる特徴的なリズムや固有名詞等から、ゆったりと歩く、リズムカルに跳ねるなどという動きを取り入れた活動 ・はじめは示範をまねて動き、拍や特徴的なリズムを感じ取った動きで表現しながら、主体的に表現につなげる活動 ・簡単なリズムに合わせて自発的に体を動かすこと、旋律や歌詞に意識を向けて部分的に表現すること ・動物名が付いている曲名やその歌詞の一部に出てくる動きを表す言葉と、それらを表すリズムや速度、旋律のつながりに気づいて表現すること ・拍は足踏みで表現し、旋律は腕の動きで表現すること 等		

内容	1 段階	2 段階	3 段階
B 鑑賞	ア 音楽遊びの活動	ア 鑑賞の活動	
	(ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見つこうとすること。 (イ) 聴こえてくる音や音楽に気付くこと。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。 (イ) 身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。 (イ) 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。
	(具体的な内容の例) ・音が聴こえてきたと思うこと、音に反応すること ・やさしいメロディーや分かりやすいリズムを聴いて楽しむこと 等	(具体的な内容の例) ・音楽に合わせて体を揺らしたり、声を出したり、手を動かしたり、体を使って表現すること ・身近な人の演奏や自分の生活に身近な音を聴く中で、好みの音色やフレーズを見つけること ・リズムや速度の面白さに気付き、自然と体が動いたり、自分の好きな部分を口ずさんだり、踊ったりしながら聴いたり、逆に好きな曲に対し動きを止めてじっと耳を傾けて聴くこと 等	
[共通事項]	(1)「A表現」及び「B鑑賞」		
	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考えること。		
	イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。		
	共通教材 「うみ」「かたつむり」「日のまる」「ひらいたひらいた」「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」「タやけこやけ」		

目標・内容の一覧（図画工作）

小学部			
教科の目標			
表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	（１）形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくることができるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	（２）造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。		
学びに向かう力、人間性等	（３）つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。		
段階の目標	１段階	２段階	３段階
知識及び技能	ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。	ア 形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	ア 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。	イ 表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることににより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを感じるとともに、形や色などに関わることににより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることににより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

※児童が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「思考力、判断力、表現力等」、(イ)は「知識及び技能」として整理

内容	１段階	２段階	３段階
A 表現	ア 線を引く、絵をかくなどの活動	ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形をつくるなどの活動	ア 日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり、作品をつくったりする活動
	(ア) 材料などから、表したいことを思い付くこと。	(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。	(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと。
	(イ) 身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどすること。	(イ) 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。	(イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくったりすること。
	(具体的な内容の例) ・色々な素材に触れ、握ったり押したり、ちぎったり丸めたりして形を変えたり、作ったりして遊ぶこと ・土、木の葉、貝殻、水といった自然物などの材料に触れ、形の感じや質感をとらえること、色の変化に気づくこと ・手指やペン、クレヨンなどを使って描いて遊ぶこと ・素材遊びからつぶす、伸ばす、ちぎる、丸める、破る、接合する、積み上げる、崩す、並べる、穴をあけるなどの造形遊び 等	(具体的な内容の例) ・身近なものや、嬉しかったこと、不思議に感じたこと、驚いたことなど体験したことを絵に描くこと、形や色に着目して絵に描くこと ・身近な人、動植物、自然、体験したことなどを題材にして、クレヨンやクレパス、水彩絵の具、カラーペンなどを使って描くこと ・土、紙材、草木、アルミ箔、箱、空き缶などを用いて、のり、粘着剤、ステープラー、はさみ、へら、シャベルなどを使って形をつくること ・スチレンボード、針金、プラスチック、ゴムなどの人工物を用いて、作品を作ること ・かなづち、ペンチ、のこぎり、彫刻刀、くぎ、ねじ、接着剤などの簡易な木材加工用具や金属加工用具を使って作品をつくること 等	
B 鑑賞	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動		ア 自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動
	(ア) 身の回りにあるものなどを見ること。	(ア) 身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア) 自分たちの作品や、日常生活の中にあるものなどの形や色、表し方の面白さなどについて、感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。
	(具体的な内容の例) ・自分の作品や友達の作品等への興味関心、互いに見せ合うこと、表現方法の違いへの関心 ・材料や触れても良い作品などを、指先で触る、手のひらで包み込むように触る、抱きかかえるように触る、持ち上げるなど様々な方法で触ること ・自分の作品に題名や名前を付けること ・作品で表現した内容を自分の言葉で説明したり、友達の説明を聞いたりして形や色、表現方法の面白さを感じる 等		
[共通事項]	ア「A表現」及び「B鑑賞」		
	(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。	(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと。	(ア) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。
	(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

目標・内容の一覧（体育）

小学部			
教科の目標			
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	（１）遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	（２）遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	（３）遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。		
段階の目標	1 段階	2 段階	3 段階
知識及び技能	ア 教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	イ 基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	イ 基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく運動をしようしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするとともに、自分から健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。

※児童が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	1 段階	2 段階	3 段階
A 体づくり運動遊び（1 段階） 体づくり運動（2,3 段階） 【6 学年間にわたって取り扱うこと】	体づくり運動遊び ア 教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。 イ 手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。 ウ 簡単な合図や指示に従って、体づくり運動遊びをしようすること。	体づくり運動 ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすること。 イ 基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。 ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体づくり運動をしようすること。	ア 基本的な体づくり運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。 イ 基本的な体づくり運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。 ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく基本的な体づくり運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようすること。
	（具体的な内容の例） ・教師と一緒に手足を動かすこと ・教師と歩行、一人で歩行 ・バランスを取る、座る、階段の上り下りなどの基本的な身体運動 ・手足の曲げ伸ばし、前後左右の開脚、腕振りや腕回し ・しゃがんだり立ったり、その場跳びをしたり、転がったりするなどの運動遊び ・なわやテープの上を歩いたり、踏まないようにまたいで歩いたりするなどの運動遊び 等	（具体的な内容の例） 【体ほぐしの運動】 ・伸び伸びとした動作、リズムに乗った動作、歩いたり走ったりする運動 ・用具を用いての伸び伸びした動作、リズムに乗って弾むような動作、動作や人数などの条件を取り入れての歩いたり走ったりする運動 ・伝承遊びや集団による運動 【多様な動きをつくる運動】 ・片足を軸にした右回り・左回りの回転 ・片足でのバランス ・大また小またなどの歩行、直線上の歩行、一列に並んで歩行 ・無理のない速さで続けるかけ足 ・大きさや重さの異なるボールを両手でつかむ、持ち上げる、持ち下げる運動 ・長なわでの大波・小波 ・なわを引きながら、力比べ ・後ろ歩き、横歩き、リズムに合わせた行進 ・立った姿勢からリズムにのった右回り・左回りの回転 ・押し合いずもうでの押したり踏ん張ったりする動作 ・友達と手をつないだり、肩を組んだり、背中をあわせたりした状態で、立ったり座ったりする運動 ・横や後ろや斜めの走る、曲線やジグザグなどの走路や細い走路を走ること ・無理のない速さでの3～4 分間程度続けるかけ足 ・大きさや重さの異なるボールや棒などの用具を片手や両手で投げる、捕る運動 ・短なわを揺らしたり、回旋したりしながらの前や後ろの連続両足跳び ・友達をおんぶしたり、おんぶして歩いたりすること 等	
	器械・器具を使つての遊び ア 教師と一緒に、器械・器具を使つて楽しく体を動かすこと。 イ 器械・器具を使つて体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	器械・器具を使つての運動 ア 教師の支援を受けながら、楽しく器械・器具を使つての基本的な運動をすること。 イ 器械・器具を使つての基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	ア 器械・器具を使つての基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。 イ 器械・器具を使つての基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。

内容	1 段階	2 段階	3 段階
B 器械・器具を使つての遊び（1 段階） 器械・器具を使つての運動（2,3 段階）	ウ 簡単な合図や指示に従って、器械・器具を使つての遊びをしようとするこ と。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、器械・器具を使つての基本的な運動をしようとするこ と。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく器械・器具を使つての基本的な運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとするこ と。
	（具体的な内容の例） ・ジャングルジムの登り下りやぶら下が り ・ブランコでの前後の揺れ ・トランポリンの上下の揺れ ・マットでの横転がりや色々な転がり ・低鉄棒のぶら下がり ・低い跳び箱へのよじ登り、低い位置か らの跳び下り 等	（具体的な内容の例） 【ジャンピングボード、トランポリン】上下跳ね 【平均台】低い平均台の渡り歩き、跳び下り、細い平均台の前向き歩行、後ろ向 き歩行 【マット】ゆりかご、前転がり、後ろ転がり、連続横転がり、前転、 【鉄棒】低鉄棒への跳び上がり、跳び下り、鉄棒のぶら下がり、前後振り、前回 り下り 【跳び箱】またぎ乗り、またぎ下り、跳び乗り、跳び下り 等	
C 走・跳の運動遊び（1 段階） 走・跳の運動（2,3 段階）	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	
	ア 教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の基本的な運動をすること。	ア 走・跳の基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ 走ったり、跳んだりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 走・跳の基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 走・跳の基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、走・跳の運動遊びをしようとするこ と。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、走・跳の基本的な運動をしようとするこ と。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく走・跳の基本的な運動をし たり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするこ と。
D 水遊び（1 段階） 水の中での運動（2,3 段階）	（具体的な内容の例） ・教師が方向や速さを加減しながら、教師の言葉かけのリズムに合わせて一定の時間や距離と一緒にゆっくり走る、早く走る ・正面や横で教師が介助しながら、教師の合図や言葉かけのリズムに合わせてその場で上方に両足や片足で跳び、前方に飛び 等	（具体的な内容の例） 【走る運動】 ・30m程度のかけっこ、トラックのカーブの走る、教師の手拍子やことばかけに合わせて一定の速度で走る ・3～4分程度の時間を一定の速さでゆっくり走る、30～50m程度を全力で走る、ジグザグやS字レーン、リレーなどで走る 【跳ぶ運動】 ・一人で片足や両足で、上方や前方への連続跳び、低い障害物をまたぐ、跳び越える ・片足や両足で前方へ連続でのケンパー跳び、輪や段ボールなどの低い障害物を助走をつけて勢いよく跳び越える 等	
	水遊び	水の中での運動	
	ア 教師と一緒に、水の特性を生かした簡単な水遊びを楽しくすること。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく水の中での基本的な運動をすること。	ア 水の中での基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ 水の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 水の中での基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 水の中での基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
E ボール遊び（1 段階） ボールを使った運動やゲーム（2,3 段階）	ボール遊び	ボールを使った運動やゲーム	
	ア 教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること。	ア ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとするこ と。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとするこ と。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするこ と。

内容	1 段階	2 段階	3 段階
E ボール遊び (1 段階) ボールを使った運動やゲーム(2,3 段階)	(具体的な内容の例) ・色々なボールを転がす、投げる、蹴る、捕るなどの遊び ・ボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりしながら行う的当て遊び 等	(具体的な内容の例) 【ボールを使った基本的な運動】 ・大小、弾む・弾まないなどの色々なボールで、つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止める ・教師や友達に投げたり、転がしたり、止めたり、捕ったり、蹴り合ったりする ・友達とのキャッチボール、ボールを打つ、蹴ったり止めたりするパスやシュート、手や足でのドリブル 【ボールを使ったゲーム】 ・的当てゲーム(ボールを転がす、投げる、蹴る) ・ボールをゴールに運ぶ ・シュートゲーム、円形ドッジボール、ハンドベースボール、キックベースボール 【友達を追いかけたり逃げたりするゲーム】 ・一人鬼、手つなぎ鬼、子増やし鬼 ・しっぽ取りゲーム 等	
F 表現遊び (1 段階) 表現運動(2, 3 段階)	表現遊び ア 教師と一緒に、音楽の流れている場所で楽しく体を動かすこと。 イ 音楽の流れている場所で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。 ウ 簡単な合図や指示に従って、表現遊びをしようとする事。	表現運動 ア 教師の支援を受けながら、音楽に合わせて楽しく表現運動をすること。 イ 基本的な表現運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。 ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な表現運動をしようとする事。	ア 基本的な表現運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付け、表現したり踊ったりすること。 イ 基本的な表現運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。 ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく表現運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする事。
	(具体的な内容の例) ・音楽を感じながら、自由に体を動かす、歩いたり走ったりする、はねたり跳んだりする 等	(具体的な内容の例) 【題材と動き】 ・身近な動物や車や飛行機などの乗り物等の真似 ・衣服が洗濯で洗われたり干されたりする様子などを全身の動きで表現する ・空や海や風など想像が広がる題材で自由に表現する 【リズムと動き】 ・軽快なリズムの曲や児童が親しんでいる曲で、弾む、回る、ねじるなどの動きで自由に踊る ・ロックやサンバなどのリズムにのって友達と手をつなぎスキップしながら回ったり、ねじったり、手を叩き合ったりして踊る 等	
G 保健 【6 学年間にわたって取り扱うこと】	健康な生活に必要な事柄 ア 教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。 イ 健康な生活に必要な事柄に気づき、教師に伝えること。	ア 教師の支援を受けながら、健康な生活に必要な事柄をすること。 イ 健康な生活に必要な事柄に慣れ、感じたことを他者に伝えること。	ア 健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。 イ 健康な生活に必要な事柄について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	(具体的な内容の例) ・「うがい」「のど」「せき」といった言葉に触れ、教師と一緒にうがいをしたり、関心をもったりする ・「かお」「むね」「せなか」といった言葉に触れ、タオルやハンカチ等で汗を拭く ・体調が悪い時やけがをしたときに保健室に行く ・自分の体調の変化に気づき、教師にことばや表情、サイン、絵カードなどで伝える、体調が悪いときやけがをしたときに痛い部位をことばや表情、サイン、絵カードで伝える ・手の汚れの状態を見て、手洗いをする ・身体測定や健康診断などの場の雰囲気慣れに慣れたり必要な態度を身につける、体重や身長の変化に興味関心をもつ、身体の成長に関心をもつ ・むし歯の予防について関心をもつ ・発熱や咳、排便の状態などを意識し、治療や休養が必要なことを教師等に知らせる ・病気やけがをしたときに落ち着いて簡単な手当を受ける ・友達のけがや体調の変化を教師等に告げる 等		

目標・内容の一覧（外国語活動）

小学部	
教科の目標	
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	（１）外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。
思考力、判断力、表現力等	（２）身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。
学びに向かう力、人間性等	（３）外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
内 容	
知識及び技能	（１）英語の特徴等に関する事項：具体的な言語の使用場面や具体的な状況における言語活動
	ア 言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。
	イ 日本と外国の言語や文化について、以下の体験を通して慣れ親しむこと。 （ア）英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き、音声やリズムに親しむこと。 （イ）外国の生活や行事などに触れ、日本と外国の生活や違いを知ること。
	（具体的な内容の例） ・外国語のもつ音声やリズムなどに親しむ ・具体物や絵カードを見ながら英語の音声を聞き、英語特有のリズムやイントネーションに慣れる ・ALTなどのネイティブ・スピーカーとの交流（簡単な遊びやゲーム）を楽しむ 等
思考力・判断力・表現力等	（２）自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地に関する事項：具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現すること
	ア 身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとする。
	イ 身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする。
	（具体的な内容の例） ・英語で話しかけられたり、やり取りを見たりすることに慣れる ・動画や音声等の教材から流れる映像や英語の音声に興味関心をもち、見たり聞いたりする ・コミュニケーションの相手や身近な人が話している英語をまねて話す、質問や要求にうなずく、表情や動作、発話などで応じる 等
	（３）言語活動及び言語の働きに関する事項
	① 言語活動に関する事項：（２）に示す事項については、（１）に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げる
	ア 聞くこと （ア）既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。 （イ）既に知っている物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。
	イ 話すこと （ア）既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。 （イ）既に知っている歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りなどを使って表現する活動。
	（具体的な内容の例） ・経験したことの活動や場面で使用される挨拶や言葉を、英語の挨拶や言葉などにして聞く ・知っている物や事柄に関する英語を聞いて、それを表す実物や写真、絵などを選ぶ ・自分の名前や好きなものなどを簡単な英語で伝える ・これまでに経験した活動を簡単な英語や身振りなどを使って表現する 等
	② 言語の働きに関する事項：言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げる
	ア 言語の使用場面の例 （ア）児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面 ㊦ 歌やダンスを含む遊び ㊧ 家庭での生活 ㊨ 学校での学習や活動 など
	イ 言語の働きの例 （ア）コミュニケーションを円滑にする ㊦ 挨拶をする （イ）気持ちを伝える ㊦ 礼を言う など
	（具体的な内容の例） ・誕生日を祝う歌などの英語の歌、簡単なアルファベットを使ったゲーム、身体の部位を英語に替えて歌うなどの手遊び歌 ・一日の生活の流れにかんする言葉を簡単な英語で話したり聞いたりする ・英語での簡単な挨拶（Good morning/afternoon, Hello, Hi, Goodbye, See you.など） ・英語での自己紹介（Hello, I am ○○, I like △△.など） ・英語でお礼を伝える（Thank you.） 等

目標・内容の一覧（国語）

中学部		
教科の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	１段階	２段階
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方 （ア）身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 （イ）発音や声の大きさに気を付けて話すこと。 （ウ）長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。 （エ）言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。 （オ）主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。 （カ）普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。 （キ）語のまとまりに気を付けて音読すること。	
	（ア）日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 （イ）発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。 （ウ）長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。 （エ）理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。 （オ）修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。 （カ）敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。 （キ）内容の大体を意識しながら音読すること。	
	（具体的な内容の例） - 発声や声量に注意しながら話すこと - 助詞の「へ」「を」は視写や聴写の指導で繰り返し使うこと、長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞を文や文章で使うこと 「橋」と「箸」など同音でも意味が異なる場合があることに気付くこと - 丁寧な言葉と普通の言葉を相手や場面に応じて使い分けること、実際に使うことを通して使い方に慣れること - 明瞭な発音で文章を読むこと、ひとまとまりの語や文として読むこと、言葉の響きやリズムに注意して読むこと - 自分が考えたことや思ったことを周りの人に表現したり伝達したりすること - 修飾語に係る語句を理解し、表現すること - 相手や目的に応じて「です。」「ます。」や、「だ。」「だった。」を意識して使い分けること 「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」を押さえて文章全体から登場人物の行動や気持ちの変化などの大筋を捉えること - 声に出して読み、読んでいる声をしっかりと聞いて内容の理解を深めること 等	
	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方 （ア）事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。 （イ）必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。 （ア）考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。 （イ）必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	
	（具体的な内容の例） 「いつ、だれが、なにをした」など、内容の時間的な順序に気を付けながら情報を整理すること - 人の話を聞いたり文や文章を読んだりしたことを正しく捉えること - なぜそのような考えをもつか理由を説明すること - 物事の説明や経験を分かるように報告すること、理由を明確にして感想を述べること - 自分の考えと相手の考えの同じところや違うところを見つけ比べること 等	

内容	1 段階	2 段階
知識及び技能	ウ 我が国の言語文化 (ア) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ⑧ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。 (エ) 読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。 (ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ⑧ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (エ) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。
	(具体的な内容の例) ・俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと、短歌や俳句を音読したり暗唱したりすること ・年賀状や暑中見舞いといった挨拶状で、用いる語句や時候の挨拶の使い方を知ること ・自分や周りの人が読むことができるように文字の形を整えて書くこと ・文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などの点画に注意して書くこと、「上から下へ」「左から右へ」「横から縦へ」といった原則として一般に通用している筆順を意識すること ・色々な文章に接し、語句の意味などから文や文章が表している場面の情景や事柄の流れ、登場人物の心情などを読み取ることで、情操を深めること ・生活に身近なことわざなどの意味を知り、日常生活で使うようにすること ・行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろるように読みやすい文や文章をかくこと ・物語、昔話、絵本、科学的な読み物、図鑑など読書の幅を広げること、学校図書館等の施設の利用方法を知ること 等	
思考力・判断力・表現力等	A 聞くこと・話すこと ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。 イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。 エ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。 オ 相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。 (具体的な内容の例) ・教師の説明、家族や友達の話、簡単な放送などから話しの概略を聞き取り、指示や説明に応じること ・簡単なメモをとること、分からないときは聞き返すこと ・興味関心の度合いや伝えたい思いの強さを手掛かりに、話したい内容を決めること、伝える相手を異学年の生徒や地域の人々などに広げること ・丁寧な言葉遣いや、話す相手や場面に応じた言葉遣いをする ・相手の話を聞き、話しの大体の内容を整理したりまとめたりしてわかったことや感じたことを伝え合い、伝え合ったことを通して、自分の考えや感想をもつこと ・伝えたい事柄や考え、気持ちだけを話すのではなく、話を構成する伝える順序や伝え方の工夫をすること ・話す際の発声や声の大きさ、速さに注意することは言葉の抑揚や強弱、間の取り方、視線などの表現を工夫すること、発表の様子などをICT機器で録画して振り返ること ・司会者や提案者、参加者のそれぞれの役割の中で話し合う活動を行うこと 等	ア 身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。 イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。 エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。 オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。
	B 書くこと ア 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。 イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。 エ 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。 オ 文章に対する感想をもち、伝え合うこと。 (具体的な内容の例) ・書くために必要な事柄を思い出したり想像したりしてノートやカードに書き出すこと ・「始め-中-終わり」などの文章の構成を意識して書くこと ・設定した題材、事柄の順序、語と語の続き方、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方を意識しながら書いた文章を読み返し、間違いを正しく改めること ・順序の分かりやすさや語と語との続き方などを観点として感想を伝え合うこと ・伝える、報告する、説明する、依頼する、案内するなど目的に応じて書くこと ・書いた文章を相手がどのように受け止めるかを考えること ・形式段落や意味段落などを意識して文章を構成すること ・助詞の使い方、修飾と被修飾の関係、敬体と常体の違いなどに注意しながら書くこと 等	ア 相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。 イ 書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。 ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。 オ 文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。

内容	1 段階	2 段階
思考力・判断力・表現力等	C 読むこと	
	ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。 エ 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。	ア 様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 イ 語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。 エ 中心となる語句や文を明確にしながら読むこと。 オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
	（具体的な内容の例） ・文や文章が中心となる、簡単な物語、紀行文、詩、短い劇の脚本などを読むこと、記録や報道の文章などを様々に読むこと ・身近な物の使用法や簡単な料理法の説明書などを読み、大体の使い方や作り方を捉えること、説明書を読むことから作品を作ったり、調理したりすることで作品などを作り上げる喜びを味わい、実生活に活かそうとすること ・校内の各教室の名前、交通機関や乗り場の表示、安全や危険、指示を知らせる標識や案内板、色々な店の看板やポスター、広告などが表す意味を考え、行動すること ・興味のある新聞記事や雑誌を読む、電子メールを読むなどして、楽しく潤いのある生活を送ることができるようにすること ・出来事の順序や、登場人物の気持ちの変化などどのような事柄がどのように書かれているかを大まかに捉えること ・文章の構成や内容を把握することを通して、文章のどこに着目するか、どのような思考や感情、経験と結びつけるかによって一人一人の感じ方の違いに気付くこと 等	

目標・内容の一覧（社会）

中学部		
教科の目標		
社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心をもち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解するとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）社会的事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）社会に主体的に関わろうとする態度を養い、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。	
段階の目標	１ 段階	２ 段階
知識及び技能	ア 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なきまり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関わりが分かるとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	ア 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。	イ 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す㊦は「知識及び技能」、㊦は「思考力、判断力、表現力等」として整理

内容	１ 段階	２ 段階
ア 社会参加ときまり	（ア）社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動	
	㊦ 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。 ㊦ 集団生活の中で何が必要かに気付き、自分の役割を考え、表現すること。	㊦ 学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。 ㊦ 周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること。
	（イ）社会生活に必要なきまりに関わる学習活動	
	㊦ 家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることに大切さが分かること。 ㊦ 社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。	㊦ 家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解すること。 ㊦ 社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。
イ 公共施設と制度	（具体的な内容の例） ・学級内の係活動を遂行することで、周囲の役に立つこと、地球環境にも良い影響があることなどを知ること ・玄関で靴をそろえる、学校の時間割に沿って行動するなどの家庭や学校での基本的なルールや規則を知り、守ろうとすること ・信号に従って横断歩道を渡ることで自分や周囲の安全が守られることに気付くこと ・きまりの必要性や決まりの意味を、調べたり、話し合ったりすること ・困っている人いたら声をかける、分からないことがあったら進んで人に尋ねる、教えてもらうなど適切な行動を考え選択すること ・スーパーマーケットのレジで順番に並び、交通ルールを守るなど、地域社会のルールや規則、法などを知ること ・きまりを守ることが自分や周囲の人々の安心で安全な生活につながるなど、きまりの意義を考え、行動できるようにすること	
	（ア）公共施設の役割に関わる学習活動	
	㊦ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。 ㊦ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。	㊦ 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ㊦ 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。
	（イ）制度の仕組みに関わる学習活動	
	㊦ 身近な生活に関する制度が分かること。 ㊦ 身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。	㊦ 社会に関する基本的な制度について理解すること。 ㊦ 社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・市役所、学校、公園、公民館、コミュニティセンター、図書館、児童館、体育館、美術館、博物館、資料館、文化会館、消防署、警察署、交番、裁判所などの公共施設や、学校の共有備品、電車やバスなどの交通機関、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットなどの公共物の役割や必要性について知ること ・公共施設の位置を地図で確認すること、インターネットで調べること、実際に見学や利用したりすることを通して、自分の生活との関連に気付くこと、利用の方法をインターネットで調べること、ICカードや電子マネーの扱い方を理解した上で、活用について学ぶこと ・病院の受診時に保険証を用いることで医療費負担が軽減されること、療育手帳や身体障害者手帳等を用いることで公共交通機関の利用や余暇活動の際の施設利用において割引が受けられることなどを知ること ・交通機関の利用の際に、乗車時刻や乗り換えについてインターネットで調べたり、気象情報について新聞やテレビ・ラジオ・インターネットで情報を得たりするなど、情報を活用して、自分の生活が快適になったり、円滑になったりすることに気付くこと	

内容	1 段階	2 段階
ウ 地域の安全	(ア) 地域の安全に関わる学習活動	
	㊦ 地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。 ㊧ 地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに関わる人々の働きを考え、表現すること。	㊦ 地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。 ㊧ 過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・例えば、火災について、消防署を中心に警察署、市役所、病院、学校、水・電気・ガスを供給している機関などが普段から施設・設備の点検、訓練、広報活動などに取組、火災の予防に努めていることや地域の人々が消防署への通報、避難訓練の実施、地域の消防団による防災を呼びかける活動などの火災予防の協力していること、交通事故や犯罪などの事故や事件等の警察と住民等の協力していることなどを理解すること ・実際に見学してそこで働く人々に直接話を聞く機会を設けたり、写真や動画などの視覚的に分かりやすい資料を活用したりして、調べたことを図や表にまとめたり、地図を用いてハザードマップとしてまとめたりすること ・防災リュックや非常食の用意、避難経路や避難場所の確認をすること、地域防災訓練に参加すること ・地震災害、津波災害、風災害、火山災害、雪害などに対し、関係機関が未然に防ぐ努力や備えをしていることを調べる活動を通して理解すること ・災害時に主体的な行動がとれるように、災害情報の獲得方法や、警察、消防への通報の仕方などを体験的に学ぶこと 等	
エ 産業と生活	(ア) 仕事と生活に関わる学習活動	(ア) 県内の特色ある地域に関わる学習活動
	㊦ 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。 ㊧ 仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。	㊦ 地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解すること。 ㊧ 人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。
	(イ) 身近な産業と生活に関わる学習活動	(イ) 生活を支える事業に関わる学習活動
オ 我が国の地理や歴史	㊦ 販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。 ㊧ 消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。	㊦ 水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。 ㊧ 供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・農業や漁業、林業、工業、物流、販売などの活動を実際に見学・調査したり地図などの資料で調べたりすること ・生産活動や販売活動などを取り上げ、その仕事や生産物、商品に注目し、人々の生活との関わりについて考えること ・市内の生産の仕事の種類や進め方などを調べること ・例えば、農業では農家の仕事の種類や働く人の様子、苗作りや田植えから、収穫、脱穀までの米作りの過程を取り上げること、地形や気候などの自然条件との関わり、機会や道具などの工夫や食の安全の確保のための努力などについて、仕事を見学したり、観察したり、体験したり、まとめたりすること ・近隣の小売店やスーパーマーケットなどを見学して、働く人の様子や商品を具体的に観察したり、外国を含めた商品の生産地を調べてまとめたりする活動を行い、販売の仕事と自分たちの生活との関わりについて捉えること ・地域の各産品や特産物を取り上げ、その特徴や原材料、工程、製造過程で用いられる道具などを観察するとともに、実際に見学したり、働いている人の聞き取り調査をしたりして生産物が起こった歴史的背景や、自然環境について調べまとめること ・浄水場や清掃工場などの施設の見学 ・ゴミの分別、集積、収集、処理やリサイクルといった流れを追いながら、廃棄物処理事業の必要性和課題について話し合うこと 等	
	ア) 身近な地域や市区町村（以下第2章第2節第2款において「市」という。）の様子に関わる学習活動 ㊦ 身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。 ㊧ 都道府県（以下第2章第2節第2款第1〔社会〕（2）内容において「県」という。）内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。	(ア) 身近な地域に関わる学習活動 ㊦ 自分たちの県の概要を理解すること。 ㊧ 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。
オ 我が国の地理や歴史	(イ) 身近な地域の移り変わりに関わる学習活動	(イ) 県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動
	㊦ 身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知ること。 ㊧ 交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。	㊦ 県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知ること。 ㊧ 歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・学校の周りの道の広さ、道路沿いの建物の様子などの身近な地域の様子から県における市の位置、土地の高低や海沿いなどの地形、住宅・商店街・田畑・森林・港などの様子、駅前・大きな道路に面したところ・市街地の広がりなどの様子、学校・公園・図書館などの公共施設の場所、古くから残る建造物の分布などの様子を取り上げて、その特徴的に気付くこと ・身近な液や鉄道路線・バスの交通や、公共施設・畑の広がり・住宅や商店・工場の分布などの変化、生活の道具の変化などの問いを設けて、予測を立てたり、聞き取り調査をしたりして、その変化について話し合うこと ・自分たちが住んでいる県は日本のどこに位置しているか、どのような地形か、主な産業はどこに分布しているか、交通網はどのように広がっているかなどを設けて調べ、総合して県の地理的環境の特色を理解すること ・国や県の開発・教育・医療・文化・産業などの発展に尽くした先人の働きや特徴的な出来事や、国宝、重要文化財にしていされている文化遺産に登録されているものなどの歴史を学ぶこと、文化遺産を生かした県の取組等についてボランティアで携わる人へのインタビューや、写真やグラフを見て気付いたことを話し合ったりする活動をする 等	

内容	1 段階	2 段階
カ 外国の様子	(ア) 世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動	
	㊦ 文化や風習の特徴や違いを知ること。 ① そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。	㊦ 文化や風習の特徴や違いを理解すること。 ① 人々の生活や習慣などに着目して、多様な文化について考え、表現すること。
		(イ) 世界の様々な地域に関わる学習活動
	㊦ 文化や風習の特徴や違いを知ること。 ① そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。	㊦ 人々の生活の様子を大まかに理解すること。 ① 世界の出来事などに着目して、それらの国の人々の生活の様子を捉え、交流することの大切さを考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・世界の国のうちの1か国か2か国を選んで、衣服、料理、食事の習慣、住居、国民に親しまれている行事、学校生活や子どもの遊び、あいさつの仕方やマナー等について調べてまとめ、日本との違いを知ること ・地図や地球儀、写真や動画等を活用したり、地域の外国人や留学生から聞き取り調査をしたり、実際に外国の伝統的な衣服を着たり、その国の言葉で挨拶をしたりすること ・オリンピック・パラリンピック等のスポーツの国際大会や、地域における国際交流のイベント等との時期と関連させて興味関心を高めること ・世界には多様な文化が存在していることについて理解できるように、例えば砂漠の多い地域の自然の特色と、衣服、料理、食事の習慣、住居等を調べ、相違点や類似点を考えること ・ノーベル賞や国際的なスポーツ大会のような文化・スポーツに関すること、政治や経済等の出来事のことに着目して、オリンピック・パラリンピック大会のように日常生活でも外国との交流が盛んに行われていることや、外国と交流することの大切さについて理解できるようにすること	

目標・内容の一覧（数学）

中学部					
教科の目標					
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
知識及び技能	（１）数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。				
思考力、判断力、表現力等	（２）日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。				
学びに向かう力、人間性等	（３）数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。				
段階の目標		１段階		２段階	
知識及び技能	A数と計算	ア ２位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けるようにする。		ア 整数の概念や性質について理解を深め、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法、乗法及び除法の意味や性質について理解し、それらの計算ができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について知り、数量とその関係を表したり読み取ったりすることができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。	
	B図形	ア 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。		ア 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形や面積、角の大きさについて理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図や構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	
	C測定	ア 身の回りにおける長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。			
	C変化と関係			ア 二つの数量の関係や変化の様子を表や式、グラフで表すことについて理解するとともに、二つの数量の関係を割合によって比べることについての技能を身に付けるようにする。	
	Dデータの活用	ア 身の回りにおけるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けるようにする。		ア データを表や棒グラフ、折れ線グラフで表す表し方や読み取り方を理解し、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	A数と計算	イ 数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を養う。		イ 数を構成する単位に着目して、数の表し方やその数について考えたり、扱う数の範囲を広げ、計算の仕方を見だし、筋道立てて考えたりするとともに、日常生活の問題場面を数量に着目して捉え、処理した結果を場面をもとに振り返り、解釈及び判断する力を養う。	
	B図形	イ 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を養う。		イ 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、図形を構成する要素に着目し、図形の計量について考察する力を養う。	
	C測定	イ 身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。			
	C変化と関係			イ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、変化の特徴に気付き、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察したり、割合を用いて考察したりする力を養う。	
	Dデータの活用	イ 身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を養う。		イ 身の回りの事象について整理されたデータの特徴に着目し、事象を簡潔に表現したり、適切に判断したりする力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	A数と計算	ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。		ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
	B図形	ウ 図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。		ウ 図形や数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
	C測定	ウ 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
	C変化と関係			ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
	Dデータの活用	ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。		ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	1 段階	2 段階
A 数と計算	ア 整数の表し方に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 1000 までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。 ㊧ 3 位数の表し方について理解すること。 ㊨ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 ㊩ 3 位数の数系列、順序、大小について、数直線上の目盛りを読んで理解したり、数を表したりすること。 ㊪ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 4 位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。 ㊧ 10 倍、100 倍、$1/10$ の大きさの数及びその表し方について知ること。 ㊨ 数を千を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。
	イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 2 位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ること。 ㊧ 簡単な場合について 3 位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。 ㊨ 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。 ㊩ 計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法及び減法の計算ができること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 3 位数や 4 位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。 ㊧ 加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。 ㊨ 計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。
	ウ 整数の乗法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 乗法が用いられる場合や意味について知ること。 ㊧ 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊨ 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。 ㊩ 乗法九九について知り、1 位数と 1 位数との乗法の計算ができること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 1 位数と 1 位数との乗法の計算ができ、それを適切に用いること。 ㊧ 交換法則や分配法則といった乗法に関して成り立つ性質を理解すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。
		エ 整数の除法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 除法が用いられる場合や意味について理解すること。 ㊧ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊨ 除法と乗法との関係について理解すること。 ㊩ 除数と商が共に 1 位数である除法の計算ができること。 ㊪ 余りについて知り、余りの求め方が分かること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。
		オ 小数の表し方に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。 ㊧ $1/10$ の位までの小数の仕組みや表し方について理解すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。
		カ 分数の表し方に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ $1/2$、$1/4$ など簡単な分数について知ること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。

内容	1 段階	2 段階
A 数と計算		キ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。 ㊧ □などを用いて数量の関係を式に表すことができることを知ること。 ㊨ □などに数を当てはめて調べること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し、事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。
	(具体的な内容の例) 上記内容を参考	
B 図形	ア 図形に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 直線について知ること。 ㊧ 三角形や四角形について知ること。 ㊨ 正方形、長方形及び直角三角形について知ること。 ㊩ 正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすること。 ㊪ 直角、頂点、辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。 ㊫ 基本的な図形が分かり、その図形をかいたり、簡単な図表を作ったりすること。 ㊬ 正方形、長方形及び直角三角形をかいたり、作ったり、それらを使って平面に敷き詰めたりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を見るとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目すること。 ㊧ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。 ㊨ 基本的な図形と関連して角について知ること。 ㊩ 直線の平行や垂直の関係について理解すること。 ㊪ 円について、中心、半径及び直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察して、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。
		イ 面積に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 面積の単位〔平方センチメートル (cm²)、平方メートル (m²)、平方キロメートル (km²)〕について知り、測定の意味について理解すること。 ㊧ 正方形及び長方形の面積の求め方について知ること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 面積の単位に着目し、図形の面積について、求め方を考えたり、計算して表したりすること。
		ウ 角の大きさに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。 ㊧ 角の大きさの単位 (度 (°)) について知り、測定の意味について理解すること。 ㊨ 角の大きさを測定すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 角の大きさの単位に着目し、図形の角の大きさを的確に表現して比較したり、図形の考察に生かしたりすること。
	(具体的な内容の例) 上記内容を参考	
C 測定	ア 量の単位と測定に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。 ㊧ 長さの単位〔ミリメートル (mm)、センチメートル (cm)、メートル (m)、キロメートル (km)〕や重さの単位〔グラム (g)、キログラム (kg)〕について知り、測定の意味を理解すること。 ㊨ かさの単位〔ミリリットル (mL)、デシリットル (dL)、リットル (L)〕について知り、測定の意味を理解すること。 ㊩ 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすること。	

内容	1 段階	2 段階
C 測定	イ 時刻や時間に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 時間の単位（秒）について知ること。 ㊧ 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。	
	(具体的な内容の例) 上記内容を参考	
C 変化と関係		ア 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 伴って変わる二つの数量の数量の関係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察すること。 イ 二つの数量の数量の関係に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 簡単な場合について、ある二つの数量の数量の関係と別の二つの数量の数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 日常生活における数量の数量の関係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の数量の関係を考察すること。
		(具体的な内容の例) ・和が一定の場合や差が一定の場合など、伴って変わる二つの数量の数量の関係について、積や商が一定の場合を調べたり、変量等を□や○などを用いて表したりすること、グラフによって確かめること
D データの活用	ア 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすること。	ア データを表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり、読んだりすること。 ㊧ データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取ったりすること。 ㊨ 表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方を理解すること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。 ㊧ 目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見付けて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりすると。
	(具体的な内容の例) ・好きな遊び調べのアンケートをとり、選んだ人数を○の個数で表し、その○を並べたグラフを読み取ること ・ゲームの結果を○×で表に表し、○の数を数えて数値で表すなどすること ・日時、曜日、時間や場所などの観点から分類の項目を選び、分かりやすく整理することを通して、表と関連づけながら棒グラフで表すこと ・数量の大小や差などを読むこと、最大値や最小値を捉えること、項目間の関係や全体的な特徴などを読み取ること ・月日の経過に対して降水量と気温の変化などの変量を折れ線グラフで表すこと	
数学的活動	(ア) 日常生活の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動 (イ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、式などを用いて表現し伝え合う活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数学の学習に関わる活動 (イ) 日常の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、表及び式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動 (ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、表、式などを用いて表現し伝え合う活動

目標・内容の一覧（理科）

中学部			
教科の目標			
自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	（１）自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	（２）観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	（３）自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。		
段階の目標		１段階	２段階
知識及び技能	A 生命	ア 身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	B 地球・自然	ア 太陽と地面の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	C 物質・エネルギー	ア 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 水や空気の性質についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	A 生命	イ 身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。
	B 地球・自然	イ 太陽と地面の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。
	C 物質・エネルギー	イ 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 水や空気の性質について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	A 生命	ウ 身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境の関わりについて見いだした疑問を進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。
	B 地球・自然	ウ 太陽と地面の様子について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。
	C 物質・エネルギー	ウ 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 水や空気の性質について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す（ア）は「知識及び技能」、（イ）は「思考力、判断力、表現力等」として整理

内容	１段階	２段階
A 生命	ア 身の回りの生物 身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動	ア 人の体のつくりと運動 人や他の動物について、骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらを関係付けて調べる活動
	（ア）次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。 ㊧ 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。	（ア）次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 人の体には骨と筋肉があること。 ㊧ 人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。
	（イ）身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気付き、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。	（イ）人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・タンポポやチューリップなどの様々な種類の植物やアリやカエルなどの様々な種類の動物の観察（見たり、触れたり、においを感じたりすること） ・「卵→幼虫→蛹→成虫」などの昆虫の育ち方の観察 等	（具体的な内容の例） ・自分の体に直接触れ、骨の位置や筋肉の存在を知ること ・手や足のように曲がるところを「関節」という名称で説明し、自分の体を動かしたり他の動物が運動しているところを観察したりすること 等
		イ 季節と生物 身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらを関係付けて調べる活動 （ア）次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。 ㊧ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

内容	1 段階	2 段階
A 生命		(イ) 身近な動物の活動や植物の成長の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。 (具体的な内容の例) ・身近に見られる動物の暖かい季節の活動の活発さと寒い季節の活動の鈍さの違い、卵で越冬するなどの適した過ごし方があることに気付くこと ・魚類や両生類は水温の変化によって活動の様子に違いがあることや、鳥類は季節によって見られる種類や産卵、巣立ちなどに違いがあることに気付くこと ・身近な植物を一年を通して定期的に観察し、暖かい時期、寒い時期の成長の違いや冬になると種子をつくって枯れたり形態を変えて越冬したりすることに気付くこと 等
	ア 太陽と地面の様子 太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 日陰は太陽の光を遮るとできること。 ㊧ 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあること。 (イ) 日なたと日陰の様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、太陽と地面の様子との関係についての疑問をもち、表現すること。 (具体的な内容の例) ・校庭などで日陰や影を観察し、太陽の影の位置を地面に描いたり、方位磁針を用いて方位を調べたりすること ・太陽の光が当たっている地面と当たっていない地面の暖かさや地面の様子についての観察、実験で、手や足で地面に触れて感じとったり、温度計を用いて測定したりすること 等	ア 雨水の行方と地面の様子 雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。 ㊧ 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。 (イ) 雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。 (具体的な内容の例) ・地面にできた雨水の流れの方向について観察し地面の傾きに気付くこと ・水のしみ込み方の違いについて、虫眼鏡で土の粒の大きさやしみ込むまでの時間を比べたりすること 等
B 地球・自然		イ 天気の様子 天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 天気によって2日の気温の変化の仕方に違いがあること。 ㊧ 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。 (イ) 天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。 (具体的な内容の例) ・晴れや雨などの天気の異なる日の気温を1時間おきに測定して、その結果をグラフに表すこと ・二つの容器に同じ量の水を入れ、一つには蓋をし、もう一方には蓋をしないで日光の当たる場所に数日間置き、容器内の水の量の違いを調べること 等
	ウ 月と星 月や星の特徴について、位置の変化や時間の経過に着目して、それらを関係付けて調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 月は日によって形が変わって見え、2日のうちでも時刻によって位置が変わること。 ㊧ 空には、明るさや色の違う星があること。 (イ) 月の位置の変化と時間の経過との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。 (具体的な内容の例) ・任意の時刻における月の位置を木や建物などを目印にして調べたり、方位を表したりする活動を行うこと、学校で観察ができない時間帯の月の位置の変化については、ビデオカメラで月を撮影したり、コンピュータを使って調べたりすること 等	
C 物質・エネルギー	ア 物と重さ 物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。 ㊧ 物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。	ア 水や空気と温度 水や空気の性質について、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。 ㊧ 水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。

内容	1 段階	2 段階
C 物質・エネルギー	(イ) 物の形や体積と重さとの関係について調べる中で、差異点や共通点に気づき、物の性質についての疑問をもち、表現すること。 (具体的な内容の例) - 粘土やアルミニウム箔、新聞紙など、数種類の身の回りにある物を広げたり、いくつかに分けて丸めたりすることで形を変え、その時の重さの違いを調べる活動 - 自動上皿ばかりを用いて、重さを数値化し記録すること - 粘土や砂などの物を、容器などを用いて体積を同じにし、その時の重さの違いを調べる活動	(イ) 水や空気の体積や状態の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。 (具体的な内容の例) 水や空気を温めたり冷やしたりしたときの体積を調べ、水は温度によって水蒸気や氷に変わることに気付くこと、水は100℃より低い温度でも蒸発していることに気付くこと
	イ 風やゴムの力の働き 風やゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わる。 ㊧ ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わる。 (イ) 風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、風やゴムの力の働きについての疑問をもち、表現すること。 (具体的な内容の例) - 風の力で動く物をつくり、うちわや板目紙などで風の力の大きさなどを変えて、動く様子の変化を調べる - ゴムの力で動く物をつくり、長さや太さが違うゴムを複数束ねたり、引っ張る長さを変えたり、ゴムの力の大きさを変えたりして、動く様子の変化を調べる	
	ウ 光や音の性質 光や音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 日光は直進すること。 ㊧ 物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わる。 ㊨ 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えている。 (イ) 光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、光や音の性質についての疑問をもち、表現すること。 (具体的な内容の例) - 平面鏡やアルミニウム板などに日光を当て、鏡の向きや光の様子について調べ、光が直進することを知ること - 放射温度計やデジタルサーモテープなどで物の明るさや暖かさの変化を調べる - 打楽器などの音を出したときの物の震え方や大きさを変えた時の現象の違いについて調べる - 鉄棒や糸電話を使うことで音の伝わりを捉える	
	エ 磁石の性質 磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物がある。 ㊧ 磁石の異極は引き合い、同極は退け合う。 (イ) 磁石を身の回りの物に近付けたときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、磁石の性質についての疑問をもち、表現すること。 (具体的な内容の例) - 磁石に物が引き付けられる力を手ごたえなどで感じとったり、磁石を方位磁針に近付けてその動き方を調べたりすること - 磁石の極を調べたり、磁石に引き付けられる物、引き付けられない物を分類、整理すること	
	オ 電気の通り道 電気の回路について、乾電池と豆電球などのつながり方と、乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつながり方を比較しながら調べる活動	

内容	1 段階	2 段階
C 物質・エネルギー	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。 ㊧ 電気を通す物と通さない物があること。 (イ) 乾電池と豆電球などをつないだときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、電気の回路についての疑問をもち、表現すること。 (具体的な内容の例) ・豆電球などが動作するつなぎ方と動作しないつなぎ方を調べること ・鉄やアルミニウム、ガラスや木などを用いて電気を通す物と通さない物を調べること 等	

目標・内容の一覧（音楽）

中学部		
教科の目標		
表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）音楽表現を考えることや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	（３）進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。	ウ 主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「思考力、判断力、表現力等」、(イ)及び(ウ)は「知識及び技能」として整理

内容	１段階	２段階
A 表現	ア 歌唱の活動 （ア）歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。 （イ）次の②及び④について気付くこと。 ② 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ④ 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり （ウ）思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の②から④までの技能を身に付けること。 ② 範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする技能 ④ 発声の仕方に気を付けて歌う技能 ⑤ 友達の歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能 （具体的な内容の例） ・元気が出る雰囲気や曲の穏やかな気持ちになる雰囲気や曲から受ける印象と、速度や音の大きさ、音の重なりなどとの関係に気付くこと、速度や曲の調性などによって生み出されるその音楽の雰囲気や表情、味わいと、歌詞で表されている情景やイメージとの関係に気付くこと ・生徒が表したい思いや意図をもち、声の大きさをコントロールしたり、きれいな声で歌うための姿勢や口形、呼吸法などに留意して歌うこと、友達と合わせる意識をもち、友達の歌声に合わせて歌ったり、合図を送って歌ったり、伴奏を聞いて速さや歌い出しなどを合わせて歌ったりすること ・歌詞を覚え、歌詞の表す情景や曲想について、イメージをもち、歌詞の内容を意識して歌ったり、リズムや音の高低を意識して発声したりすること、教師や友達の歌や伴奏の響きを聴きながら思いや意図にふさわしい歌声になるように意識したり、相手に合わせて自分の声の大きさや出し方などをコントロールしながら歌うこと	
	イ 器楽の活動 （ア）器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。 （イ）次の②及び④について気付くこと。 ② 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ④ 楽器の音色と全体の響きとの関わり （ウ）思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の②から④までの技能を身に付けること。 ② 簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能 ④ 音色や響きに気を付けて、打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ⑤ 友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能 （具体的な内容の例） ・元気な曲は元気よく、ゆっくり穏やかな曲はやさしく演奏するなど、曲の雰囲気に合いそうな演奏の仕方を考えること ・自分一人の演奏だけでなく、友達と合わせた時の響きに気付くこと ・卓上木琴、卓上鉄琴、卓上ベル、リードを交換して音を出す笛などの打楽器や音の高さが変わる楽器で、強弱やアクセントを意識し、全体の響きを感じながら演奏すること ・様々な楽器を用いて友達と一緒に演奏する時に、楽器の組み合わせなどの工夫により、音色や響きの変化に気付くこと ・パートごとに演奏を行うことで、同じパートの他者とリズムや音の高さなどをそろえやすくしたりするなどして、リズムや速度をそろえようと意識して演奏すること	
	（ア）器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。 （イ）次の②及び④について理解すること。 ② 曲想と音楽の構造との関わり ④ 多様な楽器の音色と全体の響きとの関わり （ウ）思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の②から④までの技能を身に付けること。 ② 簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する技能 ④ 打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する技能 ⑤ 友達の楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏する技能	

内容	1 段階	2 段階
A 表現	ウ 音楽づくりの活動	
	(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の②及び④をできるようにすること。 ② 音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。 ④ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。 (イ) 次の②及び④について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。 ② いろいろな音の響きの特徴 ④ リズム・パターンや短い旋律のつなげ方の特徴 (ウ) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の②及び④の技能を身に付けること。 ② 設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能 ④ 音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽をつくる技能	(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の②及び④をできるようにすること。 ② 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。 ④ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。 (イ) 次の②及び④について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて理解すること。 ② いろいろな音の響きやその組み合わせの特徴 ④ リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方や重ね方の特徴 (ウ) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の②及び④の技能を身に付けること。 ② 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能 ④ 音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる技能
	(具体的な内容の例) ・一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質によって音の特徴や雰囲気異なったりすることに気付くこと、音の響きや組み合わせのよさや音のつなげ方や重ね方の面白さに気付くこと ・「呼びかけとこたえ」を使い、一つの声部の呼びかけに、他の声部がこたえるような音楽を作っていくこと ・音を組み合わせでつくったリズム・パターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりして音の高さ、長さ、音色、重なりなどの特徴に気付くこと ・「ソラシ」の三つの音を使い、一人一人が4拍で即興的に表現し、順番に旋律をつなぐ」といった条件のもと表現すること ・反復と変化を使い、短いフレーズを反復させた後、変化させて、また最初のフレーズを反復させて音楽をつくること 等	
	エ 身体表現の活動	
B 鑑賞	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。 (イ) 次の②及び④の関わりについて気付くこと。 ② 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ④ 曲名や歌詞と体の動きとの関わり (ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の②から④までの技能を身に付けること。 ② 示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて身体表現したりする技能 ④ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせで身体表現をする技能 ⑤ 友達と動きを合わせて表現する技能	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。 (イ) 次の②及び④の関わりについて理解すること。 ② 曲想と音楽の構造との関わり ④ 曲名や歌詞と体の動きとの関わり (ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の②から④までの技能を身に付けること。 ② 示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする技能 ④ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせでまとものある表現をする技能 ⑤ 友達と動きを相談して、合わせて表現する技能
	(具体的な内容の例) ・「ダンス」「ポルカ」のような曲名や「煙たなびく」のような歌詞から想起する動きを体の動きで表現すること ・示範を参考にして動き、速度やリズム、曲の雰囲気など、感じ取ったものをより複合的に身体表現すること ・動きを合わせるために、感じたことを話し合うことや、出し合ったアイデアをまとめて動きに表すこと 等	
	ア 鑑賞の活動	
	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだして聴くこと。 (イ) 曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かること。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。 (イ) 曲想と音楽の構造等との関わりについて理解すること。
[共通事項]	(具体的な内容の例) ・曲の雰囲気や表情を感じ取ったり音楽がどのように形づくられているのかを捉えたりして、その音楽について自分が気に入ったところなどを見付けて聴くこと、例えば「楽しく感じるのは、カッコカッコと同じリズムを繰り返し打っているのに、時々リズムが変わったり、途中からチリチリリーンという音が入ったりするから」などと曲の雰囲気と音楽の構造の関わりにふれて表現できること ・曲想を生み出している音楽の構造に目を向けられるように、手で拍を取ったり、リズムや速さなどを手や身体で表しながら聴いたり、感じ取ったことや気付いたことを話し合ったり、音の構造を可視化したり、特徴的な部分を聴いて確かめたりすること 等	
	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」	
	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における動きと関わらせて理解すること。	
	共通教材 「うさぎ」「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」「さくらさくら」「とんぴ」「まきばの朝」「もみじ」	共通教材 「こいのぼり」「子もり歌」「スキーの歌」「冬しげき」「越天楽今様」「おぼろ月夜」「ふるさと」「われは海の子」

目標・内容の一覧（美術）

中学部		
教科の目標		
表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）造形的な視点について理解し、表現したいことに合わせて材料や用具を使い、表現方を工夫する技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）造形的なよさや面白さ、美しさ、表現したいことや表現方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	（３）創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 造形的な視点について気づき、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表現方を工夫する技能を身に付けるようにする。	ア 造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表現方を工夫する技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 造形的なよさや面白さ、表現したいことや表現方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	イ 造形的なよさや面白さ、美しさ、表現したいことや表現方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。	ウ 主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を高め、心豊かな生活を営む態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「思考力、判断力、表現力等」、(イ)は「知識及び技能」として整理

内容	１段階	２段階
A 表現	ア 日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表現したいことや表現方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動	ア 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表現したいことや表現方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動
	（ア）経験したことや思ったこと、材料などを基に、表現したいことや表現方を考えて、発想や構想をすること。 （イ）材料や用具の扱いに親しみ、表現したいことに合わせて、表現方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。	（ア）経験したことや想像したこと、材料などを基に、表現したいことや表現方を考えて、発想や構想をすること。 （イ）材料や用具の扱い方を身に付け、表現したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。
	（具体的な内容の例） ・絵や版画の題材：静物や風景の観察や描写、学校行事や社会行事などの印象、想像画、木版、ゴム版、スチレンボード版 ・デザインの題材：ポスター、案内表示・標識、表紙装丁デザイン、カット、模様・装飾 ・彫刻や立体の題材：人、動物、乗り物、建築物 ・工芸品の題材：箱、筆立て、ペン皿、焼き物の器物 ・主な材料や用具：水彩絵の具、ポスターカラー、色鉛筆、ペン、パステル、色紙、粘土、木、石、布、紙、金属、プラスチック、スチレンボード、ニス、水性・油性塗料、釘、彫刻刀、金づち、のこぎり、簡易な木材・金属加工用具、電動の糸のこぎり、研磨機などの電動工具	
B 鑑賞	ア 自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動	
	（ア）自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。 （イ）表現方や材料による印象の違いなどに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。	（ア）自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること。 （イ）表現方や材料による特徴の違いなどを捉え、自分の見方や感じ方を深めること。
	（具体的な内容の例） ・完成した作品だけでなく、製作途中の作品も鑑賞すること ・身近な材料を見たり触ったりすることから感じ取った面白さや楽しさを自然に言葉にすしたり、友達の話の聞いたりしながら楽しむこと ・校外学習などと関連させて美術館を見学したり、校内の作品展などを開催し、自分たちの作品を重点的に鑑賞したりすること	
〔共通事項〕	ア 「A表現」及び「B鑑賞」	
	（ア）形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。 （イ）造形的な特徴などからイメージをもつこと。	

目標・内容の一覧（保健体育）

中学部		
教科の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
段階の目標	1 段階	2 段階
知識及び技能	ア 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	イ 各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気づき、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。	ウ 各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気づき、自己の健康の保持増進と回復に進んで取り組む態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

内容	1 段階	2 段階
A 体づくり運動 【3学年間にわたって取り組むこと】	体づくり運動 ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。 イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、その行い方を理解し、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。 イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
	（具体的な内容の例） 【体ほぐしの運動】 ・伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動 ・リズムに乗って心が弾むような動作での運動 ・ペアになって互いの心や体の状態に気付き合いながら、体をゆらすなどの運動 ・動作や人数などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動 ・伝承遊びや集団による運動 【多様な動きをつくる運動】 ・友達と手をつないだり、背中合わせになったりしながら、立ったり座ったりすること ・平均台など、少し高さのある器具の上を動物歩きや横歩きなどで渡ること ・物や用具の間を速さ、方向を変えて這ったり、歩いたり、走ったりすること、用具などを等間隔に並べた走路や、跳び箱や平均台などの器具で作った段差のある走路をリズムカルに走ったり跳んだりすること ・両足で跳び、手足の動作を伴って全身じゃんけんをすること ・登り棒や肋木をしっかりと握り、数を数えながら一定の時間ぶら下がること、全身に力を込めて登り棒に捕まったり、肋木や雲底にぶら下がったりすること ・ラジ体操や学校や地域で親しまれている簡単なリズムに合わせて行う体操 ・体の各部位を大きく広げたり曲げたりする姿勢を維持すること ・ゴムひもを張りめぐらせて作った空間や、棒の下や輪の中をくぐり抜けること ・用具をコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をすること ・様々な姿勢での腕立て伏せ腕屈伸をすること ・短なわ、長なわを使つての跳躍やエアロビクスなどの全身運動を続けること 等	
B 器械運動	器械運動 ア 器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けること。 イ 器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 器械・器具を使った運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けること。 イ 器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。

内容	1 段階	2 段階
B 器械運動	(具体的な内容の例) 【マット運動】連続前転、後転、場（傾斜）を使った開脚前転、連続後転、開脚後転、壁倒立 【鉄棒運動】足抜き回り、高鉄棒にぶら下がりて体を前後に振って跳ぶ、補助逆上がり、前回り下り 【跳び箱運動】腕立て横跳び越し、開脚跳び 【平均台を使った運動】後ろに方向転換、ポーズ 等	
C 陸上運動	陸上運動 ア 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	
	(具体的な内容の例) 【短距離走・リレー】距離を決めて調子よく走る、全力疾走する、速度や方向を変えて走る、30～60m程度の短距離走、座った状態や後ろ向きなどのいろいろな走り出しの姿勢から素早く走り始める、リレーの走る順番を守ったり走りながらバトンパスをしたりする、走る距離やルールを定めての競走、目標をめざしながら一定の距離を全力で走る、50～80m程度の短距離走、リレーの約束を守る 【長距離走】スポーツテストや持久走などを踏まえた一定の距離を決めての長距離走、個々のタイムなどの目標をめざした長距離走 【小型ハードル走（障害物走）】幅広い障害物や小型ハードルを自分にあったリズムで走り越す、リズムカルに走り越す 【跳ぶ運動】（ゴム跳びなどで）助走を付けて片足で地面を蹴って上方に跳ぶ 等	
D 水泳運動	水泳運動 ア 初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	
	(具体的な内容の例) ・くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮き ・け伸び ・様々なもぐり方 ・補助具を使った泳ぎ ・呼吸をしながらの泳ぎ ・補助具を使ったクロールや平泳ぎのストローク 等	
E 球技	球技 ア 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。 イ 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	
	(具体的な内容の例) ・ラインサッカー、ミニサッカーなどを基にした簡易化されたゲーム（パス、シュート、ドリブル） ・ソフトバレーボールを基にした簡易化されたゲーム（ごく軽量のボール片手、両手ではじく、友達と打ち続ける） ・手や打球面の広いラケットなどで静止したボールを打つなどして行う簡易化されたゲーム（フェアグラウンド内にボールを蹴る、打つ、ベースに向かって全力で走る） ・ボートボール、バスケットボール、サッカーを基にした簡易化されたゲーム（ボールを持ったときにゴールに体を向ける、ボール保持者と自分の間に守る者がいないように移動する、コート内で攻守入り交じって味方にパス、シュート、ドリブル） ・バドミントンや卓球を基にした簡易化されたゲーム（シャトルやボールをラケットで打つ、ボールの方向に体を向ける、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動する） ・フットベースボール、ティーボールを基にした簡易化されたゲーム（バットでボールを打つ、静止したボールを打つ、ベースに向かって全力で走りかけ抜ける、向かってくるボールの方向に移動する） 等	
F 武道	武道 ア 武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。 イ 武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	
	ア 武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。 イ 武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	

内容	1 段階	2 段階
F 武道	ウ 武道に進んで取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 武道に積極的に取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
	(具体的な内容の例) 【柔道】姿勢、組み、横受け身、膝車、けさ固め、すり足、後ろ受け身、前回り受け身、支え釣り込み足、横四方固め 【剣道】構え、体さばき、歩み足、送り足、二段の技(面-胴)、胴の部位の打突と受け、二段の技(小手-面)、小手の部位の打突と受け、引き技(引き胴) 【相撲】蹲踞、塵浄水、四股、腰割り、中腰構え、すり足、押し、寄り、仕切りからの立ち合い、受け身、いなし、出し投げ-受け身 ※武道場などの確保が難しい場合は、安全上の配慮を十分に行い、基本動作や基本となる技の習得を中心として指導を行うなど指導方法を工夫すること。	
G ダンス	ダンス	
	ア ダンスの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。
	イ ダンスについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ ダンスについての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
	ウ ダンスに進んで取り組み、友達の動きを認め協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ ダンスに積極的に取り組み、友達のよさを認め助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
H 保健 【3学年間にわたって取り組むこと】	保健	
	ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。	ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けること。
	イ 自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 自分やグループの健康・安全についての課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
	(具体的な内容の例) ・身体測定の結果や性徴を通して体の発育に関心をもつ、身体部位の動きを知る、けが防止のための運動前後の体操をする、病気予防のための運動後の汗ふき、うがい、身辺の清潔、寒暖に応じた着衣の調節、体調を考えての適度な運動、バランスのとれた食事 ・自分の体調の変化を捉え、けがや病気の際に教師や友達に伝える、消毒薬や体温計を適切に使う、薬を指示に応じて服用する、部屋の明るさの調節、換気などの環境の調整 ・心と体の調子を理解する ・友達の体調の変化やけがをした際に教師に伝えたり、施設や用具の安全な使い方を知りけがのないように気を付けて行動したりする ・不安や悩みがある時には、家族や教師、友達などと話したり、相談したりする、友達と遊ぶ、運動をしたり音楽を聴いたりする、呼吸法を行うなどにより、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりする	

目標・内容の一覧（職業・家庭）職業分野

中学部		
教科の目標		
生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	
段階の目標	1 段階	2 段階
	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	ア 職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付く、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「知識及び技能」、(イ)は「思考力、判断力、表現力等」、(ウ)は「学びに向かう力、人間性等」として整理

内容	1 段階	2 段階
A 職業生活	ア 働くことの意義 働くことに関心をもち、作業や実習等に関わる学習活動	ア 働くことの意義 働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関わる学習活動
	（ア）働くことの目的などを知ること。 （イ）意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。 （ウ）作業や実習等で達成感を得ること。	（ア）働くことの目的などを理解すること。 （イ）意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 （ウ）作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。
	（具体的な内容の例） ・作業工程における自分の分担、役割に気付く、作業工程表等をもとに活動する、学習記録を通して自己の変容に気付く、周囲の人の評価や感想により自分の成長を見つめ直す活動 ・自分の仕事と他者の仕事の分担や関連について理解すること、同じ場で同じ仕事をする人と一緒に協力すること、地域の人を対象にした販売会、地域に貢献する活動	
	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えを深めたり、体験したりする学習活動
	（ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ㊧ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ㊨ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。 ㊩ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 ㊪ 作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ㊧ 作業に当たり安全や衛生について気付く、工夫すること。 ㊨ 職業生活に必要な健康管理について気付くこと。	（ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦ 職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ㊧ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ㊨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ㊩ 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ㊪ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを身に付けること （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ㊧ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ㊨ 職業生活に必要な健康管理について考えること。
	（具体的な内容の例） ・職業の名称、仕事の内容、生産品や製品及び商品の名称、商店や会社の役割などを知ること、安全や衛生に気を付けた道具や工具の使用、作業内容や方法が分かり終了の見通しをもって実施、一定の時間集中して作業に取り組む、作業を進める上で必要なコミュニケーションを行う、周囲の人に相談をする、手洗いや身支度、作業手順や工程の理解、材料や道具などの作業準備、半完成品の整理、完成品の計数や整理、諸点検、作業時の服装や姿勢、材料や用具の持ち方、機械の扱い方 ・制作・生産・生育等における作業の分担、福祉サービス等の内容や利用方法、仕事に安定的に取り組むための健康管理の仕方、工具類や農具、工作機械の安全な操作の仕方、製品の材料となる素材や生育する生物等の保管・管理、確実な作業や整理・整頓、時間帯や場所に応じた適切な服装、動作、言葉遣い、自分の仕事に責任をもって最後まで成し遂げようとする意欲	

内容	1 段階	2 段階
B 情報機器の活用	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動	
	ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。 イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。 イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。
	(具体的な内容の例) ・タブレット(携帯用端末)を含んだコンピュータ等の情報機器、固定電話やスマートフォンを含んだ携帯電話、ファクシミリ等の通信機器、複写機(コピー機)等の事務機器などの初歩的な操作の仕方、使用する際のルールやマナー、インターネット利用上のトラブルなどの危険性を回避する具体的な方法の理解 ・SNSや通信用アプリケーション・ソフトの適切な使い方、人権侵害の防止	
C 産業現場等における実習	実際の学習活動	
	ア 職業や進路に関わることにについて関心をもったり、調べたりすること。 イ 職業や職業生活、進路に関わることにについて、気づき、他者に伝えること。	ア 職業や進路に関わることにについて調べて、理解すること。 イ 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。
	就業体験や産業現場等における実習を計画するに当たっては、あらかじめ教育課程に適切に位置づけるとともに、以下のことに留意すること ア 関係諸機関や家庭との連携に基づいて計画すること。 イ 就業体験先及び実習先の開拓に当たっては、学校の教育活動として行う就業体験や実習の意義などが就業体験先及び実習先に理解されるようにすること。 ウ 就業体験先及び実習先における担当者、実施期間や時間、仕事内容、指導方法、配慮事項などをあらかじめ確認すること。 エ 就業体験及び実習開始前までに、就業体験先及び実習先に通うための指導を行ったり、仕事内容や必要とされる勤務態度などについて指導したりすること。 オ 就業体験及び実習中における健康・安全に留意し、緊急時の対応などを就業体験先及び実習先や家庭と確認すること。 カ 就業体験及び実習中の生徒の評価を行い、「個別的教育支援計画」等に明記するとともに、就業体験及び実習終了後の指導や進路先への円滑な接続に生かすこと。 なお、中学部における就業体験及び実習の実施に当たっては、賃金、給料、手当などの支払いを受けないこと、教師が付き添って指導に当たることなどが必要である。	

目標・内容の一覧（職業・家庭）家庭分野

中学部		
教科の目標		
生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	
段階の目標	1 段階	2 段階
	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	ア 家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。	イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	1 段階	2 段階
A 家族・家庭生活	ア 自分の成長と家族 自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動	
	（ア）自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。	（ア）自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。
	（イ）家族とのやりとりを通して、家族を大切にしたい気持ちを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	（イ）家族とのやりとりを通して、家族を大切にしたい気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・家庭での衣食住や家族に関する仕事や、家族の協力・分担する必要性の理解 ・家族一人ひとりが家庭内の仕事や役割を果たしていること等の理解	
	イ 家庭生活と役割 家庭生活での役割などに関わる学習活動	
	（ア）家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知ること。	（ア）家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。
	（イ）家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。	（イ）家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・家庭の中で自分でできることを行うこと ・家族の一員として家庭生活の中で担う役割を考え、実際に役割を果たすこと等の理解	
	ウ 家庭生活における余暇 家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動	
	（ア）健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする。	（ア）健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。
	（イ）望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。	（イ）望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・文化芸術的なこと（読書、絵画制作・鑑賞、楽器演奏・音楽鑑賞、手芸、園芸、飼育、テレビ視聴など）や、体育的なこと（遊具・器具を使った遊び、運動・スポーツなど）を知ること ・余暇活動の選択 ・自分に合った健康管理や余暇の過ごし方についての理解	
	エ 幼児の生活と家族 幼児と接することなどに関わる学習活動	
	（ア）幼児の特徴や過ごし方について知ること。	（ア）地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。
	（イ）幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	（イ）家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・自分の幼い頃の振り返り ・幼児と関わる際の言葉のかけ方や働きかけの仕方等の理解	
	オ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動	
	（ア）地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。	（ア）地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。
	（イ）家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。	（イ）家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・学校の周りの商店等で働く人や近所に暮らす人などと交流する、地域の特色や文化、産業などのよさに気付く等の理解	

内容	1 段階	2 段階
B 衣食住の生活	ア 食事の役割 食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動	ア 食事の役割 楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動
	(ア) 健康な生活と食事の役割について知ること。 (イ) 適切な量の食事を楽しくとすることの大切さに気付く、それらを他者に伝えること。	(ア) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。 (イ) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・家族や親しい人と一緒に食べることや落ち着ける環境で食べることにより食事の時間を楽しみにしたり、美味しいことを喜び、伝え合い共有すること ・1日の生活の中で3食を規則正しくとり、栄養や食品をバランスよくとること、好き嫌いをせずに食べようとする等	
		イ 栄養を考えた食事 バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動
		(ア) 身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。 (イ) バランスのとれた食事について気付く、献立などを工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・食品の栄養素の特徴、分類 ・主食と副食、汁物の組み合わせ、彩り、味のバランス ※生徒の生育歴や障害の特性、アレルギー等に十分に留意すること	
	イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動	ウ 調理の基礎 食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動
	(ア) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。 (イ) 簡単な調理計画について考えること。	(ア) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 (イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・短時間で比較的単純な工程でできる調理 ・電子レンジやホットプレートの使用、コンセントの取扱いや実習中の高温の加熱用調理器具等への注意 ・準備から片付けまでの調理工程の見通し、手順や調理法をタブレット端末等の情報機器を用いての実習 ・ガスや火の扱いに対する注意、まな板や布巾の取扱いなどの衛生面の基本的事項は必ず取り扱うこと ・魚や肉などの生の食品の扱いについての食中毒予防のための安全で衛生的な扱い方の徹底 ・食品の保存方法や保存期間の理解、食品の腐敗や食中毒の原因との関連	
	ウ 衣服の着用と手入れ 衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動	エ 衣服の着用と手入れ 衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動
C 消費生活・環境	(ア) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする。こと。 (イ) 日常着の着方や手入れの仕方に気付く、工夫すること。	(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 (イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・運動や作業、給食など活動内容に応じた衣服の着方 ・季節や気温に応じた衣服の選択、汚れた衣服の始末や洗濯物の整理などの基本的な衣服の取扱い ・地域での学習や実習、家族との外出、余暇など、目的や時期、場所などを考えた衣服の着方や身だしなみを整えること ・冠婚葬祭や儀式等での衣服の着方	
	エ 快適な住まい方 持ち物の整理や住まいの清掃などに関わる学習活動	オ 快適で安全な住まい方 住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動
	(ア) 住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする。こと。 (イ) 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付く、工夫すること。	(ア) 快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。 (イ) 季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付く、工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・教室や家庭内にある窓や換気扇、照明器具や日よけ、カーテンなどの役割、室内の整理・整頓や清掃 ・ガラスや火器、刃物などの危険物についての注意、落下物や階段など家庭内で起こる様々な事故やそれらの防ぎ方 ・扉や窓の施錠や鍵の管理、セールス等の訪問者への基本的な対応の仕方 ・地震や火事など緊急時に身を守ることや避難場所、連絡先の理解	
	ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動	ア 身近な消費生活 身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動
	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。こと。 (イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切にしようとしたこと。	(ア) 生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。 (イ) 生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。
	(具体的な内容の例) ・商店等で品物を購入する方法や、買物かごの扱い方、支払いや釣銭などの受け取りなど買物に係る一連の手順の理解、家族に頼まれた買物や自分が必要とする物を正しく選ぶこと ・同じ物でも品質や価格などに違いがあることを知る、目的に合った物の選び方を知る、必要な物であるかどうかを考えると、予算を考えて購入すること、人数を考えて適切な数量を選ぶこと、使用目的を理解した上で、予算内の品物を選ぶこと、電子マネーやプリペイドカードなどの支払い方や適切な取扱い	

内容	1 段階	2 段階
C 消費生活・環境	イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動	イ 環境に配慮した生活 自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動
	(ア) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする事。	(ア) 身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。
	(イ) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	(イ) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・ごみの分別の仕方、空き缶やペットボトルの回収の役割、物を無駄なく大切に使うことや再利用についての学習 ・リサイクル工場等の見学で、回収した物がどのように再利用されるのかを実際に見る ・買い物の際のエコバックを活用がゴミを減らすことにつながることに気付く、電気の消灯や水の使用などエネルギーの無駄使いを防ぐ習慣をつける	

目標・内容の一覧（外国語）

中学部	
教科の目標	
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	（１）外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
思考力、判断力、表現力等	（２）身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
学びに向かう力、人間性等	（３）外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
内 容（英語） ※外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。	
知識及び技能	（１）英語の特徴等に関する事項：実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動
	ア 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと （ア）英語の音声を聞き、真似て声を出したり、話したりしようとする。 （イ）英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりなどの動きがあることを感じ取ること。 （ウ）基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを感じ取ること。 イ 日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと （ア）体験的な活動を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。 （イ）対話的な活動を通して、相手の発言をよく聞こうとしたり、相づちや表情、ジェスチャーなどで応じようとしたりすること。
	（具体的な内容の例） - 英語の歌、文字、食べ物やスポーツ、生活用品などの名称、初歩的な挨拶、指示、質問などのやり取りできるもの - 言葉によらないジェスチャー・表情・サインを用いたやり取り - 初対面の挨拶、体調や気分、好きなもの（こと）を尋ねる、「立つ」「座る」などの動作を指示する際のやり取り 等
思考力・判断力・表現力等	（２）情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項：具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現すること
	ア 日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合うこと。 イ 日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に答えたりすること。
	（具体的な内容の例） - 友達や家族、先生との会話、食事や買い物などの場面や遊びやゲームやクイズなどの活動 - 挨拶、自己紹介、好きなものや得意なこと、物の名前などの語を自分の考えや気持ちに合わせて表現する - カードや具体物を用いて伝える、YesやNo、または簡単な語などで返答をする、教師の音声を真似ながら伝える 等
	（３）言語活動及び言語の働きに関する事項
	①言語活動に関する事項：（２）に示す事項については、（１）に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する
	ア 聞くこと （ア）文字の発音を聞いて文字と結び付ける活動。 （イ）身近で具体的な事物に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。 （ウ）挨拶や簡単な指示に応じる活動。
	イ 話すこと〔発表〕 （ア）自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。 （イ）身近で具体的な事物の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。
	ウ 話すこと〔やり取り〕 （ア）簡単な挨拶をし合う活動。 （イ）自分のことについて、具体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動。 （ウ）ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。
	エ 書くこと （ア）身近な事物を表す文字を書く活動。 （イ）例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。
	オ 読むこと （ア）身の回りで見られている文字や単語を見付ける活動。 （イ）日本の人の名前や地名の英語表記に使われている文字を読む活動。
	（具体的な内容の例） - 英語の活字体の大文字と小文字をで、文字そのものを示す際に用いられる名称の読み方のものを取り扱う - アルファベットの１文字のみのカードを提示、絵と単語を合わせたカードを提示して発音の違いに気付く、aとuなどの文字を区別する - 食べ物、動物、色、数字などの英語を聞いて、イラストや写真を選ぶ活動 「Good morning」などの呼びかけに返答する、手を挙げるなどの動作で応じる 「Stand up./Sit down./Look at this card.」、「Run./Walk./Stop.」などの簡単な指示に対して応じる - 自己紹介で、「I'm Mika.」「I'm thirteen years old.」「I like dogs.」などの基本的な表現を用いて、「dog」などの簡単な語を自分の事実に変えて表現する、実物やイラスト、写真を用いたり、動作を交えたりして表現する 「It's red and white.」「Very small.」などの簡単な語句で状態を表現する、「One,two,three…」と数えたり、物に触って「warm/cold」などで表現する 「Do you like sushi?」などの簡単な質問に対して「Yes./No.」で答える、「How about you?」などの表現で聞き返されたことに対して「I like curry and rice.」と表現する、「Pardon?」や「I don't know.」などで意思表現する - 自分の名前を書く、例示をなぞる、名前を書いたら声に出して読む（全ての文字が書けなくてもよい、書くことの楽しさを感じることができるように取り扱う） - 平仮名、片仮名、漢字などの表記との違いに気付く英語の文字がわかる、英語には大文字と小文字があることに気付く、文字そのものを示す際に用いられる名称の読み方と語の中で用いられる際の文字が示す音の読み方があることに気付く 等

思考力・判断 力・表現力等	②言語の働きに関する事項：言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げる ア 言語の使用場面の例 (ア) 特有の表現がよく使われる場面 ㊦ 挨拶をする ㊧ 自己紹介をする ㊨ 買物をする ㊩ 食事をする など (イ) 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ㊦ ゲーム ㊧ 歌やダンス ㊨ 学校での学習や活動 ㊩ 家庭での生活 など (具体的な内容の例) (ア) 特有の表現がよく使われる場面 ㊦ 挨拶をする 例1 A : Good morning. How are you? B : I'm fine, thank you. 例2 A : Good bye. B : See you tomorrow. ㊧ 自己紹介をする 例1 Hi, I'm Suzuki Emi. I like baseball very much. 例2 My name is Shinya. I live in Tokyo. Nice to meet you. ㊨ 買物をする 例1 A : May I help you? B : Yes, I'm looking for a bag. 例2 A : How much is it? B : Five hundred yen, please. ㊩ 食事をする 例1 A : Two hot dogs, please. B : Anything else? A : No, thank you. 例2 A : Would you like something to drink? B : Orange juice, please. (イ) 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ㊦ ゲーム かるた、ビンゴ、ゲーム、ミッシングゲーム、ジェスチャーゲーム ㊧ 歌やダンス リズムに合わせて聞きながら聞いたまま歌う、歌に合わせて身振りや手振り、他者とやり取りをする ㊨ 学校での学習や活動 数字での計算を英語で表現する、調理実習で使った材料の名称等を英語で表現する ㊩ 家庭での生活 「get up」「go to bed」などの運用度の高い語句に触れる	等
	イ 言語の働きの例 (ア) コミュニケーションを円滑にする ㊦ 挨拶をする ㊧ 相づちを打つ (イ) 気持ちを伝える ㊦ 礼を言う ㊧ 褒める (ウ) 相手の行動を促す ㊦ 質問する	等
	(ア) コミュニケーションを円滑にする ㊦ 挨拶をする 例1 Hello, Ken. 例2 Hi, Yuki. ㊧ 相づちを打つ 例1 Well, I know. 例2 Oh, really? (イ) 気持ちを伝える ㊦ 礼を言う 例1 Thanks. 例2 Thank you very much. ㊧ 褒める 例1 Great. 例2 Good job. (ウ) 相手の行動を促す ㊦ 質問する 例1 How about you? I'm hungry too. 例2 Do you like it? Yes, of course.	等

目標・内容の一覧（国語）

高等部		
教科の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や創造力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

内容	１段階	２段階
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方 (ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話すこと。 (ロ) 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。 (ハ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。 (ニ) 接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 (ホ) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。 (ヘ) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	
	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 (イ) 話し言葉と書き言葉に違いがあることに気付くこと。 (ロ) 文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。 (ハ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。 (ニ) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。 (ホ) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 (ヘ) 文章を音読したり、朗読したりすること。	
	（具体的な内容の例） ・自分の思いや考えをまとめたり、自分が考えたことや思ったことを周りの人に表現したり伝達したりする ・言葉の抑揚や強弱などを含め、話し手が一方的に話すのではなく、間を取りながら話す ・中学段階までに身に付けた仮名の表記の仕方や漢字を交えて書くことで、文が読みやすくなったり、伝わりやすくなったりすること体験的に理解する ・「なぜかという」となどのつながり言葉の役割を知る ・相手や場面に応じて尊敬語や謙譲語などを使う ・「だから」「しかし」のように情報と情報との関係を表す語句、「考える」「だろう」のように分の中の述語などとして現れる思考そのものに関わる語句を使うなどして、語彙の量や質を豊かにし、自分の考えを広げ深める ・「始め-中-終わり」「序論-本論-結論」などの組み立てを理解し、生徒が道筋を立てて考え、説明する ・を相手や目的に応じた語句を選んで手紙や作業等の報告書を書く 等	
	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方 (ア) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。 (イ) 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	
	（具体的な内容の例） ・「考え」と対応する「理由」や「事例」をノートやカードに書き出したり、文章に線を引いたりするなどして整理する ・文相互や段落相互の関係を理解する ・手元や教室に辞書を置く、学校図書館を利用する、タブレット端末や電子辞書等の情報機器を活用するなどして、目的に応じた辞書や辞典の選び方や、目次や索引の利用の仕方を知る ・「原因」や「結果」を表す語句や文についてイラストや写真などで具体的に示し、相互の関係を捉える ・関連する複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして図示することや、語句を書き出したカードを操作して分類・整理することにより、情報を整理する 等	
	ウ 我が国の言語文化 (ア) 生活に身近なことわざや慣用語などを知り、使うこと。 (イ) 親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	

内容	1 段階	2 段階
知識及び技能	(イ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ②文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。 (ウ) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 (具体的な内容の例) ・「塵も積もれば山となる」「善は急げ」などのことわざや、「水に流す」「羽を伸ばす」などの慣用句の意味を理解する ・文字のおおよその形を意識し、一つの文字の構成要素となる部分相互を等間隔に、左右対称に、同一方向に整えて書く ・小説、詩、新聞、雑誌、歴史小説、伝記、観察記録文、紀行文、料理や工作などの多くの本に触れ、読書記録を残す ・「矛盾」「五十歩百歩」などの故事成語の意味を理解する ・原稿用紙などの書式の用紙、半紙などの白紙などに、用紙全体からはみ出さずに書く、余白を作りすぎずに書く等、用紙全体を意識して、文字の位置、字間、行間などを意識して書く ・横断幕を書くときに、大きく書ける毛筆と墨で書きやすい布を選ぶなどに気付く ・読書によって、新たな事柄や考えを知る	(イ) 生活の中で使われる慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 (ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ②用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。 ④目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 (I) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。
思考力、判断力、表現力等		
A 聞くこと・話すこと	聞くこと・話すこと ア 社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中心に注意して聞き、話の内容を捉えること。 イ 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ウ 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 エ 相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 (具体的な内容の例) ・集会等での講話や校内放送、テレビ放送やラジオ放送での話の内容や話し方に関心を持ち、事柄の順序など話の組み立て方を意識し、話の要点を聞き内容を捉える ・最初に話の中心を決め、その後に話しの中心に合わせた説明や事例などをあげたり、どのような順番で伝えるか検討したりするなどして、話の中心がずれないように話す、詳しい説明を付け加えて自分の立場や結論を明確にする ・相手との親疎や人数、目的や場の状況に応じて、声の出し方や言葉遣い、視線などに気を付けて話す ・司会者、提案者、参加者などの役割に応じて、話題や流れを踏まえて発言する ・話し合われた意見を丸で囲んだり、線で結んだりして、話し合いの経過に伴う自分の考えの変化等を記録する ・実物や画像、映像などを用いるなどして、音声言語による説明を補足したり、強調したりする、どのような資料を使用するかを考える ・話し合いを始める前に、話し合う内容、順序、時間配分等を事前に検討し、意見を一つにまとめるために話し合うのか、互いの考えを広げるために話し合うのかといった目的や方向性を検討する	ア 社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことの中心を捉え、その内容を捉えること。 イ 目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討すること。 ウ 話の内容が明確になるように、話の構成を考えること。 エ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 オ 互いの立場や意図を明確にししながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
B 書くこと	書くこと ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。 イ 書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけること。 (具体的な内容の例) ・同じような書く材料を比較して、どちらが自分の書きたい事柄に合っているかを考える ・書こうとしている材料の中から中心に述べたいことを一つに絞り、「なぜなら～」「～のためである」といった表現を用いて考えとそれを支える理由を書いたり、「例えば～」「～などがある」などの表現を用いて事例を具体的に述べる ・主語と述語の関係の明確さ、長音、拗音、促音、撥音、助詞などの表記の仕方のほかに、敬体と常体などの文末表現に注意しながら書く ・自分の文章のよいところを見付ける際には、記述の仕方などの工夫したこと、なぜそのような考えに至ったかについてを共有する、具体的に感想や意見を述べ合う ・事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を捉えて書く ・引用の意味、目的を理解し、原文に正確に引用する ・日時や場所、内容、事実と感想の書き分け、相手に応じた書式や言葉遣いなど適切な報告書となっているか推敲する	ア 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えること。 ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 カ 文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけること。

C 読むこと	読むこと	
	ア 登場人物の行動や心情などについて、叙述を基に捉えること。 イ 段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えること。 ウ 登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像すること。 エ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	ア 登場人物の相互關係や心情などについて、描写を基に捉えること。 イ 事実と感想、意見などとの關係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ウ 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 エ 目的を意識して、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
	(具体的な内容の例) ・登場人物の心情を、登場人物の行動や会話、地の文などの叙述から心情が表れている部分を選び取るなどして捉える ・前後の場面の叙述を中心に複数の場面を結びつけながら、場面ごとの心情や情景の変化を捉える ・順番を表す言葉や考えや理由などを表す言葉などを手掛かりに中心となる語や文を選んで短くまとめる ・伝記、観察記録文、紀行文、旅行等の諸案内、趣味の工作や料理の作り方などを主体的に読む ・文章を読む前と後の自分の考えの変化に気付くことができるよう、印をつける、簡単なメモを残す ・登場人物の心情が暗示的に表現されている場合に、出来事の前と後、明と暗、悲しいとうれしいなどの比較が可能な場面を取り上げたり、音読をしたりして、表現されている心情を想像する ・叙述を基に、文章における事実と感想、意見などとの關係を押さえ、全体の構成を捉える ・国語辞典を活用し、人物の性格を表す言葉を習得する ・生活の中で使われる用具や器具、コンピューター等の情報機器、医薬品などの説明書を読み取り、必要な情報を見つける ・納品書、請求書、領収書、広報や閲覧板などの意味や、ファクシミリ、電子メールに書かれた内容を読み取る 等	

目標・内容の一覧（社会）

高等部		
教科の目標		
社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心をもち、具体的に考察する活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１） 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２） 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、自分の生活と結び付けて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３） 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。	
段階の目標	1 段階	2 段階
知識及び技能	ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、農業や水産業の現状、産業と経済との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、工業の現状、産業と情報との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。	イ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す㊦は「知識及び技能」、㊦は「思考力、判断力、表現力等」として整理

内容	1 段階	2 段階
ア 社会参加と きまり	（ア）社会参加するために必要な社会生活に関わる学習活動	
	㊦ 地域の人々と互いに協力することの大切さを理解し、自分の役割や責任を果たすための知識や技能を身に付けること。 ㊦ 社会生活の中で状況を的確に判断し、自分の役割と責任について考え、表現すること。	㊦ 社会の中で互いに協力しながら、社会生活に必要な知識や技能を身に付けること。 ㊦ 社会生活の中で状況を的確に判断し、国民としての権利及び義務、それに伴う責任について考え、表現すること。
	（イ）社会生活を営む上で大切な法やきまりに関わる学習活動	
	㊦ 社会生活を営む上で大切な法やきまりがあることを理解すること。 ㊦ 社会生活を営む上で大切な法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。	㊦ 社会の慣習、生活に関係の深い法やきまりを理解すること。 ㊦ 社会の慣習、生活に関係の深い法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。
イ 公共施設と 制度	（具体的内容の例） ・地域の清掃やボランティア活動への参加 ・法律の名前や役割を覚える、道路交通法を取り上げ法律がある生活と法律がない生活を比較する ・集団生活の中で自分が果たせる役割の重要性に気づき、協力することのよさや意義を理解する ・模擬選挙や校内の生徒会選挙などの具体的な活動を通して、日本国憲法の下、選挙で代表を選ぶ権利について学習する ・権利を行使する一方で、勤労や納税の義務を果たす必要があることを学習する ・18歳以上の国民には全ての選挙権が与えられることを理解する	
	（ア）公共施設の役割に関わる学習活動	
	㊦ 生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ㊦ 生活に関係の深い公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。	㊦ 地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ㊦ 地域における公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。
	（イ）制度に関わる学習活動	
	㊦ 我が国の政治の基本的な仕組みや働きについて理解すること。 ㊦ 国や地方公共団体の政治の取組について調べ、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。	㊦ 生活に関係の深い制度について理解すること。 ㊦ 生活に関係の深い制度について調べ、その活用を考え、表現すること。
	（具体的内容の例） ・公共職業安定所では求職登録や職業相談を受けること、市役所では住民票の取得や福祉サービスの利用申請、年金の申請を行うことなどの役割と必要性について知る ・国会において、選挙で選出された国会議員によって話し合わせ、多数決によって法律や予算が決められることなど国会、内閣、裁判所の具体的な役割を知る ・選挙、租税、年金、保険、福祉に関する制度などについて理解する ・国民年金、厚生年金などに加え、障害年金の仕組みや手続き、療育手帳や身体障害者手帳等を活用して援助を受けたり福祉サービスを利用したりすることなど、生活との関連について考える	
	等	

内容	1 段階	2 段階
ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活	(ア) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動 ㊲ 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。 ① 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害が国土の環境や国民の生活に影響を及ぼすことを理解すること。 ㊳ 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。 ② 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。	㊲ 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。 ① 国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、地図帳や各種資料で調べ、まとめる ・公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種資料で調べ、まとめる ・国土の環境保全について自分たちにできることなどを考える ・砂防ダムや堤防、防潮堤の建設、津波避難場所の整備、ハザードマップの作成など災害の種類や地形や気候に応じた対策や事業を進めていることなどを理解する ・自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善に向けて、自分たちにできることや協力できることを考え、表現する 等	
工 産業と生活	(ア) 我が国の農業や水産業における食料生産に関わる学習活動 ㊲ 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。 ① 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。 ㊳ 生産物の種類や分布、生産量の変化などに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。 ② 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。	(ア) 我が国の工業生産に関わる学習活動 ㊲ 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。 ① 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。 ㊳ 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。 ② 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
	(イ) 我が国の産業と情報との関わりに関わる学習活動 ㊲ 大量の情報や情報通信技術の活用は様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。 ① 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。	(イ) 我が国の産業と情報との関わりに関わる学習活動 ㊲ 大量の情報や情報通信技術の活用は様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。 ① 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・米、野菜、果物などの農作物や畜産物を生産する農業、魚介類を採ったり養殖したりする水産業について、生産性や品質を高める工夫、生産し輸送、販売する工程で発生する費用、輸送方法や販売方法の工夫による収益について知る ・場所ごとの生産物、生産量の変化、生産工程、食料生産の技術、輸送方法、食料価格の決定などを調べる ・実際にスーパーマーケットに並び商品やファミリーレストランで提供される食事の店頭に並びまでの過程を調べる 等	
オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史	(ア) 我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動 ㊲ 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。 ① 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。	㊲ 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。 ① 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること。
	(イ) 我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動 ㊲ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、関連する先人の業績、優れた文化遺産などを理解すること。 ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の变化を考え、表現すること。	㊲ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の变化を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。 ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の变化を考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・我が国の地形や気候にはどのような特色があるか、人々は地形条件や気候条件をどのように生かしているかなどの問いを設けて調べたり、国土の位置と地形や気候に関連付けて国土の特色を考えたり、国土の自然環境と国民生活の関連を調べる ・今日まで保存・保護されてきた文化遺産などの大切さを理解する ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに関する問いを設けて、世の中の様子の变化を調べる ・人物の肖像画や伝記、エピソード（逸話）などの具体的な資料や、修学旅行等で訪問した地域の博物館等で見たり聞いたり体験したりして理解した歴史的事象と関連させながら、表現する ・我が国は世界のどこに位置しているか、国土はどのような島々から成り立っているか、我が国の領土はどの範囲かなどについて調べ、総合して我が国の国土の特色を考える ・世の中の様子、人物の働きや体系的な文化遺産などについて調べる 等	

内容	1 段階	2 段階
カ 外国の様子	(ア) グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動	
	㊦ 異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。 ㊧ 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いについて考え、表現すること。	㊦ 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。 ㊧ 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・衣服等を題材に取り上げ、気候の暑い国と寒い国を比べて相違点を見付けたり、その国の地理的環境、気候、産業等の特色について調べる ・外国の方々に教えてもらいながら、その国の衣服を着用するなどの交流活動を行う ・国際連合の役割や我が国がユニセフやユネスコの活動に協力していることを知り、平和な国際社会の実現のために大きな役割を果たしていたり、教育や医学、農業などの分野で諸外国の発展に貢献していることを知る等	

目標・内容の一覧（数学）

高等部		
教科の目標		
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学を生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
段階の目標		
		1 段階
知識及び技能	A 数と計算	ア 整数、小数、分数及び概数の意味と表し方や四則の関係について理解するとともに、整数、小数及び分数の計算についての意味や性質について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。
	B 図形	ア 図形の形や大きさが決まる要素や立体を構成する要素の位置関係、図形の合同や多角形の性質について理解し、図形を作図したり、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めたりする技能を身に付けるようにする。
	C 変化と関係	ア 比例の関係や異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方、百分率について理解するとともに、目的に応じてある二つの数量の関係と別の二つの数量とを比べたり、表現したりする方法についての技能を身に付けるようにする。
	D データの活用	ア データを円グラフや帯グラフで表す表し方や読み取り方、測定した結果を平均する方法について理解するとともに、それらの問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	A 数と計算	イ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、数の比べ方や表し方を統合的に捉えて考察したり、数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を考察したりするとともに、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現する力を養う。
	B 図形	イ 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見いだしたりするとともに、三角形、平行四辺形、ひし形の面積の求め方を考え、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導く力を養う。
	C 変化と関係	イ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、その変化や対応の特徴を表や式を用いて考察したり、異種の二つの量の割合を用いた数量の比べ方を考察したりする力を養う。
	D データの活用	イ 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して、表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	A 数と計算	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	B 図形	ウ 図形や数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	C 変化と関係	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	D データの活用	ウ データの活用について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

内容	1 段階	2 段階
A 数と計算	ア 整数の表し方に関わる数学的活動	
	（ア）知識及び技能 ㊦ 万の単位を知ること。 ㊧ 10 倍、100 倍、1000 倍、1/10 の大きさの数及びその表し方の理解を深めること。 ㊨ 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。	（ア）知識及び技能 ㊦ 整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを理解すること。 ㊧ 約数、倍数について理解すること。

内容	1 段階	2 段階
A 数と計算	(イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数のまとまりに着目し, 大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えたとともに, それらを日常生活に生かすこと。 イ 整数及び小数の表し方に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ ある数の10倍, 100倍, 1000倍, $1/10$, $1/100$などの大きさの数を, 小数点の位置を移してつくること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数の表し方の仕組みに着目し, 数の相対的な大きさを考察し, 計算などに有効に生かすこと。 ウ 概数に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 概数が用いられる場面について知ること。 ① 四捨五入について知ること。 ㊦ 目的に応じて四則計算の結果の見積りをすること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 日常の事象における場面に着目し, 目的に合った数の処理の仕方を考えたとともに, それを日常生活に生かすこと。 エ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 大きな数の加法及び減法の計算が, 2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また, その筆算の仕方について理解すること。 ① 加法及び減法の計算が確実にでき, それらを適切に用いること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し, 計算の仕方を考えたり, 計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに, その性質を活用して, 計算を工夫したり, 計算の確かめをしたりすること。 オ 整数の乗法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が, 乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また, その筆算の仕方について理解すること。 ① 乗法の計算が確実にでき, それらを適切に用いること。 ㊦ 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し, 計算の仕方を考えたり, 計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに, その性質を活用して, 計算を工夫したり, 計算の確かめをしたりすること。 カ 整数の除法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が, 基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また, その筆算の仕方について理解すること。 ① 除法の計算が確実にでき, それらを適切に用いること。 ㊦ 除法について, 次の関係を理解すること。(被除数) = (除数) × (商) + (余り) ① 除法に関して成り立つ性質について理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数量の関係に着目し, 計算の仕方考えたり, 計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに, その性質を活用して, 計算を工夫したり, 計算の確かめをしたりすること。 キ 小数とその計算に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。 ① 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに, 数の相対的な大きさについての理解を深めること。 ㊦ 小数の加法及び減法の意味について理解し, それらの計算ができること。 ① 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。	(イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 乗法及び除法に着目し, 観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり, 数の構成について考察したりするとともに, 日常生活に生かすこと。 イ 分数に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 整数及び小数を分数の形に直したり, 分数を小数で表したりすること。 ① 整数の除法の結果は, 分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。 ㊦ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は, 元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。 ① 分数の相等及び大小について知り, 大小を比べること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数を構成する単位に着目し, 数の相等及び大小関係について考察すること。 ① 分数の表現に着目し, 除法の結果の表し方を振り返り, 分数の意味をまとめること。 ウ 分数の加法及び減法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 分数の意味や表現に着目し, 計算の仕方考えること。 エ 分数の乗法及び除法に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ㊦ 乗数や除数が整数や分数である場合も含めて, 分数の乗法及び除法の意味について理解すること。 ① 分数の乗法及び除法の計算ができること。 ㊦ 分数の乗法及び除法についても, 整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数の意味と表現, 計算について成り立つ性質に着目し, 計算の仕方を多面的に捉え考えること。

内容	1 段階	2 段階
A 数と計算	(イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し, 計算の仕方を考えるとともに, それを日常生活に生かすこと。	
	ク 小数の乗法及び除法に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。 ① 小数の乗法及び除法の計算ができること。 ㊧ 余りの大きさについて理解すること。 ② 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 乗法及び除法の意味に着目し, 乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに, それらの計算の仕方を考えたり, それらを日常生活に生かしたりすること。	
	ケ 分数とその計算に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることについて理解すること。また, 分数の表し方について知ること。 ① 分数が単位分数の幾つかで表すことができることを知ること。 ㊧ 簡単な場合について, 分数の加法及び減法の意味について理解し, それらの計算ができることを知ること。 ② 簡単な場合について, 大きさの等しい分数があることを知ること。 ㊨ 同分母の分数の加法及び減法の計算ができること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数のまとまりに着目し, 分数でも数の大きさを比べたり, 計算したりできるかどうかを考えるとともに, 分数を日常生活に生かすこと。 ① 数を構成する単位に着目し, 大きさの等しい分数を探したり, 計算の仕方を考えたりするとともに, それを日常生活に生かすこと。	
	コ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動	オ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 四則の混合した式や()を用いた式について理解し, 正しく計算すること。 ① 公式についての考え方を理解し, 公式を用いること。 ㊧ 数量を□, △などを用いて表し, その関係を式に表したり, □, △などに数を当てはめて調べたりすること。 ② 数量の関係を表す式についての理解を深めること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 問題場面の数量の關係に着目し, 数量の關係を簡潔に, また一般的に表現したり, 式の意味を読み取ったりすること。 ① 二つの数量の対応や変わり方に着目し, 簡単な式で表されている関係について考察すること。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 数量を表す言葉や□, △などの代わりに, a, xなどの文字を用いて式に表したり, 文字に数を当てはめて調べたりすること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 問題場面の数量の關係に着目し, 数量の關係を簡潔かつ一般的に表現したり, 式の意味を読み取ったりすること。
	サ 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 数量の關係に着目し, 計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。	
(具体的な内容の例) 上記内容を参考		
B 図形	ア 平面図形に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 平行四辺形, ひし形, 台形について知ること。 ① 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに, 図形の合同について理解すること。 ㊧ 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。 ② 円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。 ㊨ 円周率の意味について理解し, それを用いること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 図形を構成する要素及びそれらの位置關係に着目し, 構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに, その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。 ① 図形を構成する要素及び図形間の關係に着目し, 構成の仕方を考察したり, 図形の性質を見いだし, その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。	

内容	1 段階	2 段階
B 図形	イ 立体図形に関わる数学的活動	イ 身の回りにある形の概形やおよその面積などに関わる数学的活動
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 立方体, 直方体について知ること。 ㊧ 直方体に関連して, 直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。 ㊨ 見取図, 展開図について知ること。 ㊩ 基本的な角柱や円柱について知ること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し, 立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し, 図形の性質を見いだすとともに, 日常の事象を図形の性質から捉え直すこと。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 立方体, 直方体について知ること。 ㊧ 直方体に関連して, 直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。 ㊨ 見取図, 展開図について知ること。 ㊩ 基本的な角柱や円柱について知ること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し, 立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し, 図形の性質を見いだすとともに, 日常の事象を図形の性質から捉え直すこと。
	ウ ものの位置に関わる数学的活動	ウ 平面図形の面積に関わる数学的活動
	(ア) 知識及び技能 ㊦ ものの位置の表し方について理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 平面や空間における位置を決める要素に着目し, その位置を数を用いて表現する方法を考察すること。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 円の面積の計算による求め方について理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 図形を構成する要素などに着目し, 基本図形の面積の求め方を見いだすとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導くこと。
	エ 平面図形の面積に関わる数学的活動	エ 立体図形の体積に関わる数学的活動
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積の計算による求め方について理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 図形を構成する要素などに着目して, 基本図形の面積の求め方を見いだすとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導くこと。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 体積の単位 (立方センチメートル (㎤), 立方メートル (㎥)) について理解すること。 ㊧ 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。 ㊨ 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 体積の単位や図形を構成する要素に着目し, 図形の体積の求め方を考えるとともに, 体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。 ㊧ 図形を構成する要素に着目し, 基本図形の体積の求め方を見いだすとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導くこと。
(具体的な内容の例) 上記内容を参考		
C 変化と関係	ア 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 簡単な場合について, 比例の関係があることを知ること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 伴って変わる二つの数量を見いだして, それらの関係に着目し, 表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 比例の関係の意味や性質を理解すること。 ㊧ 比例の関係をを用いた問題解決の方法について理解すること。 ㊨ 反比例の関係について理解すること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 構成の仕方を考察したり, 図形の性質を見いだしたりするとともに, その性質を基に既習の図形を捉え直したり, 日常生活に生かしたりすること。
	イ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し, それを求めること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し, 目的に応じて大きさを比べたり, 表現したりする方法を考察し, それらを日常生活に生かすこと。	
	ウ 二つの数量の関係に関わる数学的活動	
	(ア) 知識及び技能 ㊦ ある二つの数量関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。 ㊧ 百分率を用いた表し方を理解し, 割合などを求めること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 日常の事象における数量の関係に着目し, 図や式などを用いて, ある二つの数量の割合と別の二つの数量の割合との比べ方を考察し, それを日常生活に生かすこと。	(ア) 知識及び技能 ㊦ 比の意味や表し方を理解し, 数量の関係を比で表したり, 等しい比をつくったりすること。 (イ) 思考力, 判断力, 表現力等 ㊦ 日常の事象における数量の割合に着目し, 図や式などを用いて数量の割合の比べ方を考察し, それを日常生活に生かすこと。
(具体的な内容の例) ・縦の長さが2倍、3倍、4倍…になれば、面積も2倍、3倍、4倍…になるといった比例の関係をj知る ・(速さ) = (長さ) ÷ (時間) を基に、単位時間あたりに移動する距離を比較する ・「定価の20%引き」「降水確率20%」など日常生活の中で用いられている百分率を計算機等を用いて求める ・打率やシュート率、勝率など、どちらの方が上手なのかと割合を用いて比べる、「10%の増量」「1割引」など割合を用いて考える等		

D データの活用	ア データの収集とその分析に関わる数学的活動	
	（ア）知識及び技能 ㊦ 数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読んだりすること。 ㊧ 円グラフや帯グラフの意味やそれらの用い方を理解すること。 ㊨ データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。 （イ）思考力、判断力、表現力等 ㊦ 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取り、その結論について多面的に捉え考察すること。	（ア）知識及び技能 ㊦ 代表値の意味や求め方を理解すること。 ㊧ 度数分布を表す表や柱状グラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること。 ㊨ 目的に応じてデータを収集したり、適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を理解すること。 （イ）思考力、判断力、表現力等 ㊦ 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。
	イ 測定した結果を平均する方法に関わる数学的活動	イ 起こり得る場合に関わる数学的活動
	（ア）知識及び技能 ㊦ 平均の意味や求め方を理解すること。 （イ）思考力、判断力、表現力等 ㊦ 概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かすこと。	（ア）知識及び技能 ㊦ 起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を理解すること。 （イ）思考力、判断力、表現力等 ㊦ 事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。
数学的活動	（具体的な内容の例） ・「学部（学年）によって風邪をひいている生徒の割合はどのように違うか」といった問題を設定し、データに基づいて判断する統計的な問題解決方法を知る ・平均の考え方を用いて、妥当な数値として示し、全体の傾向を捉える ・分布の様子を数量的に捉えやすくするために数量を幾つかの区間に分けて各区間に入る度数を対応させる、「棒グラフは質的データを集計した個数を高さで表して、量的データの値をそのまま高さに対応させて表したものであり、横軸ラベルには質的な文字情報表示される」こと、「柱状グラフは量的データの分布の様子を分析する目的から、階級に分けて集計し、度数の多さを高さに対応させて表しているため、横軸は数値軸になっている」ことを知る	
	（ア）日常の事象から数学の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動 （イ）数学の学習場面から数学の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動 （ウ）問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動	（ア）日常の事象を数理的に捉え、問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動 （イ）数学の学習場面から数学の問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動 （ウ）問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動

目標・内容の一覧（理科）

高等部		
教科の目標		
自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）観察、実験などを行い、解決の方法を考える力とより妥当な考えをつくりだす力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に生活に生かそうとする態度を養う。	
段階の目標		
		1 段階
知識及び技能	A 生命	ア 生命の連続性についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	B 地球・自然	ア 流れる水の働き、気象現象の規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	C 物質・エネルギー	ア 物の溶け方、電流の働きについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	A 生命	イ 生命の連続性について調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。
	B 地球・自然	イ 流れる水の働き、気象現象の規則性について調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。
	C 物質・エネルギー	イ 物の溶け方、電流の働きについて調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	A 生命	ウ 生命の連続性について進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
	B 地球・自然	ウ 流れる水の働き、気象現象の規則性について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
	C 物質・エネルギー	ウ 物の溶け方、電流の働きについて進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
		2 段階
知識及び技能	A 生命	ア 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについての理解を図り観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	B 地球・自然	ア 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	C 物質・エネルギー	ア 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	A 生命	イ 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて調べる中で、主にそれらの働きや関わりについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
	B 地球・自然	イ 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について調べる中で、主にそれらの変化や関係について、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
	C 物質・エネルギー	イ 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについて調べる中で、主にそれらの仕組みや性質、規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
学びに向かう力、人間性等	A 生命	ウ 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
	B 地球・自然	ウ 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
	C 物質・エネルギー	ウ 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについて進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

※下記「内容」の各段階に示す（ア）は「知識及び技能」、（イ）は「思考力、判断力、表現力等」として整理

内容	1 段階	2 段階
A 生命	ア 植物の発芽、成長、結実 植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら調べる活動	ア 人の体のつくりと働き 人や他の動物について、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動
	（ア）次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。 ㊧ 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。 ㊨ 植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。 ㊩ 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。	（ア）次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。 ㊧ 食べ物、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。 ㊨ 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。 ㊩ 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。
	（イ）植物の育ち方について調べる中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	（イ）人や他の動物の体のつくりと働きについて調べる中で、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
	（具体的な内容の例） ・おしべ、めしべ、がく及び花びらの存在を確かめる ・受粉と結実との関係を調べるためにおぼな、めばなのある植物を扱う、顕微鏡を適切に操作する 等	（具体的な内容の例） ・指示薬、気体検知管、気体センサーなどによる酸素や二酸化炭素の測定により呼吸や吸気を調べる、ヨウ素液によるヨウ素デンプン反応によりしょうかを調べる ・魚の解剖、標本を活用した体のつくりの観察 等
	イ 動物の誕生 動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて調べる活動	イ 植物の養分と水の通り道 植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

内容	1 段階	2 段階
A 生命	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊲ 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がつにつれて中の様子が変化してかえること。 ㊱ 人は、母体内で成長して生まれること。 (イ) 動物の発生や成長について調べる中で、動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊲ 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。 ㊱ 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。 (イ) 植物の体のつくりと働きについて調べる中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・魚が産んだ卵の中の変化を継続して観察する ・映像や模型、その他の資料を活用して胎児の成長の様子や受精した卵が母体内で少しずつ成長して体ができていくこと、へその緒を通して養分をもらって成長することなどを知る	(具体的な内容の例) ・アルミニウム箔などを被せて遮光した葉と遮光しない葉を用いて希釈したヨウ素液などを使用して葉のデンプンの様子を比較する ・植物に着色した水を吸わせ、茎や葉などを切って内部のつくりを観察したり、何枚かの葉に透明な袋で覆いをして袋に付く水分量を調べたりする
	ウ 生物と環境 生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊲ 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。 ㊱ 生物の間には、食う食われるという関係があること。 ㊰ 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。 (イ) 生物と環境について調べる中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・植物が酸素を出しているか気体検知管や気体センサーなどを活用して調べる ・植物を食べる昆虫や草食性のほ乳類と動物を食べる肉食性のほ乳類や節足動物などを知る	(具体的な内容の例) ・植物が酸素を出しているか気体検知管や気体センサーなどを活用して調べる ・植物を食べる昆虫や草食性のほ乳類と動物を食べる肉食性のほ乳類や節足動物などを知る
B 地球・自然	ア 流れる水の働きと土地の変化 流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動	ア 土地のつくりと変化 土地のつくりと変化について、土地やその中に含まれる物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動
	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊲ 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。 ㊱ 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。 ㊰ 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があること。 (イ) 流れる水の働きについて調べる中で、流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊲ 土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあること。また、層には化石が含まれているものがあること。 ㊱ 地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできること。 ㊰ 土地は、火山の噴火や地震によって変化する。 (イ) 土地のつくりと変化について調べる中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・野外での直接観察や人工の流れをつくったモデル実験で、水の速さや量を変えて土地の変化を調べる ・映像や図書を見ながら長雨や集中豪雨により増水した川の様子を捉える	(具体的な内容の例) ・地質ボーリングの資料を用いて、複数の地点の地層のつくりを層の構成物の粒の大きさや形、色について調べる ・過去に起こった火山の活動や大きな地震によってとちが変化したこと、将来起こる可能性があることを知る
	イ 天気の変化 天気の変化の仕方について、雲の様子を観測したり、映像などの気象情報を活用したりする中で、雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて調べる活動	イ 月と太陽 月の形の見え方について、月と太陽の位置に着目して、それらの位置関係を多面的に調べる活動
	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊲ 天気の変化は、雲の量や動きと関係があること。 ㊱ 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。 (イ) 天気の変化の仕方について調べる中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊲ 月の輝いている側に太陽があること。また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わる。 (イ) 月の形の見え方について調べる中で、月の位置や形と太陽の位置との関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・雲の形や量、動きの多様さなど雲にはさまざまなものがあることを知る、例えば雨に関係する雲として乱層雲や積乱雲など ・長雨、集中豪雨、台風などの気象情報から、自然災害について知る	(具体的な内容の例) ・月を観察する際に、クレーターなどの表面の様子や模様にも目を向けて観察する ・天体への興味関心を高めるために、プラネタリウムを利用する
C 物質・エネルギー	ア 物の溶け方 物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動	ア 燃焼の仕組み 燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、物の燃え方を多面的に調べる活動

内容	1 段階	2 段階
C 物質・エネルギー	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。 ㊧ 物が水に溶ける量には、限度があること。 ㊨ 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。 (イ) 物の溶け方について調べる中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。 (イ) 燃焼の仕組みについて調べる中で、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・有色の物を溶かしたとき、色が水溶液全体に均一に広がる様子を見る ・メスシリンダーや電子てんびん、ろ過器具、加熱器具、温度計などの器具の適切な操作	(具体的な内容の例) ・物が燃える際に酸素の一部が使われ二酸化炭素ができることを捉える際に、二酸化炭素の有無を調べることができる石灰水を用いたり、酸素や二酸化炭素の割合を調べることができる気体検知管や気体センサーといった測定器具を用いる ・「酸素」「二酸化炭素」という言葉を用いて表現する 等
	イ 電流の働き 電流の働きについて、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子に着目して、それらを関係付けて調べる活動	イ 水溶液の性質 水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動
	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること。 (イ) 電流の働きについて調べる中で、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。 ㊧ 水溶液には、気体が溶けているものがあること。 ㊨ 水溶液には、金属を変化させるものがあること。 (イ) 水溶液の性質や働きについて調べる中で、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
	(具体的な内容の例) ・簡易検流計などを用いて、乾電池の数を1個から2個に増やしたりつなぎ変えたりしたときのまめ電球やモーターの動作の様子や電流の大きさや向きとを関連付けて調べる 等	(具体的な内容の例) ・炭酸水、薄い塩酸、薄い水酸化ナトリウム水溶液などの水溶液の性質の違いについて、リトマス紙を用いて調べる ・実験に使用する薬品の安全な扱い方知る、保護眼鏡を使用する 等
		ウ てこの規則性 てこの規則性について、力を加える位置や力の大きさに着目して、てこの働きを多面的に調べる活動
		(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 力を加える位置や力の大きさを変えると、てこを傾ける働きが変わり、てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があること。 ㊧ 身の回りには、てこの規則性を利用した道具があること。 (イ) てこの規則性について調べる中で、力を加える位置や力の大きさとてこの働きとの関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
		(具体的な内容の例) ・てこ実験器を用いて、1カ所で支えて水平になった棒の支点から左右に等距離の位置に物をつり下げ、両側の物の重さが等しいとき、棒が水平になって釣り合うことを捉える ・ペンチ、釘抜き、空き缶つぶし、トンクなどの道具を使用して、てこの規則性や道具の仕組みや働きとの関係を多面的に調べる 等
		エ 電気の利用 発電や蓄電、電気の変換について、電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる活動
		(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができること。 ㊧ 電気は、光、音、熱、運動などに変換することができること。 ㊨ 身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があること。 (イ) 電気の性質や働きについて調べる中で、電気の量と働きとの関係、発電や蓄電、電気の変換について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。
		(具体的な内容の例) ・手回し発電機や光電池を使って発電したり、蓄電器に電気を蓄える ・蓄電した電気を使って、発光ダイオードと豆電球の点灯時間を比較する 等

目標・内容の一覧（音楽）

高等部		
教科の目標		
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	（３）音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	ア 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「思考力、判断力、表現力等」、(イ)及び(ウ)は「知識及び技能」として整理

内容	１段階	２段階
A 表現	ア 歌唱の活動 （ア）歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。 （イ）次の㉔及び㉕について理解すること。 ㉔ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ㉕ 声の音色や響きと発声との関わり （ウ）創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉔から㉕までの技能を身に付けること。 ㉔ 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能 ㉕ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 ㉖ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能	（ア）歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。 （イ）次の㉔及び㉕について理解すること。 ㉔ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ㉕ 声の音色や響き及び言葉の特性と発声との関わり （ウ）創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉔及び㉕の技能を身に付けること。 ㉔ 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 ㉕ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能
	（具体的な内容の例） ・リズムや旋律に気を付けて聴くだけでなく、音楽を形づくっている要素や表現の仕方などについて、課題意識をもって聴き、それを聴いて自分の表現がより豊かになるように聴唱する ・楽譜と音との関連を意識し、音楽の流れを感じながら読譜する ・表現にふさわしい呼吸や、発音の仕方の工夫をするに当たり、母音、子音、濁音、鼻濁音の発音や語感に気を付けて歌う ・友達の歌声や伴奏を聴きながら、音の高さやリズムが違う副旋律を意識して、自分の歌声と友達の歌声を調和させる ・ソプラノやテノールなど各声部、伴奏、民謡における掛け声や囃子詞などとの重なりやつながりなどを聴きながら歌う 等	
	イ 器楽の活動 （ア）器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。 （イ）次の㉔及び㉕について気付くこと。 ㉔ 曲想と音楽の構造との関わり ㉕ 多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり （ウ）創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉔から㉕までの技能を身に付けること。 ㉔ 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能 ㉕ 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 ㉖ 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能	（ア）器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。 （イ）次の㉔及び㉕について理解すること。 ㉔ 曲想と音楽の構造との関わり ㉕ 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり （ウ）創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉔及び㉕の技能を身に付けること。 ㉔ 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 ㉕ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能
	（具体的な内容の例） ・範奏を聴いて曲や演奏のよさや美しさを判断したり、音楽を形づくっている要素を注意深く聴きながら、課題意識をもって演奏の仕方を工夫する ・木琴や鉄琴の演奏では、表したい思いや意図に合った音色となるようマレットで打つ強さに気を付けたり、リコーダーの演奏では、音域や表現方法にふさわしい息の吹き込み方やタンギングの仕方に気を付けたりして演奏する ・各声部の役割を理解し強弱などを工夫して表現する ・姿勢や楽器の構え方、発音する際の身体の動かし方など楽器固有の演奏方法や身体の使い方を身に付ける 等	

内容	1 段階	2 段階
A 表現	ウ 創作の活動 (ア) 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。 (イ) 次の②及び④について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて理解すること。 ② いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴 ④ 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 (ウ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。 (具体的な内容の例) ・音楽をつくっていく過程で思いや糸を伝え合うことと実際に音で試すことを繰り返しながら、表現を工夫する ・「〇〇の音(楽器)を用いて、〇〇のような旋律をつくろう」といった条件で旋律や音楽をつくる ・八分音符が連続してつながるのか、二分音符が連続してつながるのかによって、動きを感じたり、落ち着きを感じたりする ・動機、旋律、リズム・パターンなどを繰り返すものや曲の中のあるまとまった部分を繰り返すといった「反復」などの音を音楽へ構成するための原理を知る	(ア) 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。 (イ) 次の②及び④について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 ② 音のつながり方の特徴 ④ 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴 (ウ) 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。
	エ 身体表現の活動 (ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。 (イ) 次の②及び④の関わりについて理解すること。 ② 曲想と音楽の構造との関わり ④ 曲想と体の動きとの関わり (ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の②から④までの技能を身に付けること。 ② 曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能 ④ 設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせるまとまりのある表現をする技能 ⑤ 友達と動きを組み合わせたり、即興的に表現したりする技能 (具体的な内容の例) ・「この曲はリズムカルな明るい雰囲気がある」と感じ取った生徒がリズムに着目してスキップをしながら身体表現するなど、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを、生徒自身が感じ取り表現する ・右手で旋律の動き、左手で左足に触れる動きでリズムを表現するなどの創意工夫を生かした表現をする ・「この曲の前半は、ゆったりとしていて静かな雰囲気を感じ取り、後半は躍動的で力強い雰囲気がある」と感じ取った生徒が旋律やリズムの変化に着目して、手や身体全体をゆったりと滑らかな動きのある身体表現から力強い動きで大きな動きに変化させながら身体表現するなど、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを、生徒自身が感じ取り表現する ・身体表現を複数で行うことにより、統一感が感じられる動きとして表す	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。 (イ) 次の②及び④の関わりについて理解すること。 ② 曲想と音楽の構造との関わり ④ 曲想や音楽の構造と体の動きとの関わり (ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の②から④までの技能を身に付けること。 ② 曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能 ④ 設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせたり、即興的に動いたりしてまとまりのある表現をする技能 ⑤ 友達と動きを組み合わせたり、即興的に表現したりする技能
	(具体的な内容の例) ・「この曲はリズムカルな明るい雰囲気がある」と感じ取った生徒がリズムに着目してスキップをしながら身体表現するなど、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを、生徒自身が感じ取り表現する ・右手で旋律の動き、左手で左足に触れる動きでリズムを表現するなどの創意工夫を生かした表現をする ・「この曲の前半は、ゆったりとしていて静かな雰囲気を感じ取り、後半は躍動的で力強い雰囲気がある」と感じ取った生徒が旋律やリズムの変化に着目して、手や身体全体をゆったりと滑らかな動きのある身体表現から力強い動きで大きな動きに変化させながら身体表現するなど、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを、生徒自身が感じ取り表現する ・身体表現を複数で行うことにより、統一感が感じられる動きとして表す	(具体的な内容の例) ・「この曲はリズムカルな明るい雰囲気がある」と感じ取った生徒がリズムに着目してスキップをしながら身体表現するなど、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを、生徒自身が感じ取り表現する ・右手で旋律の動き、左手で左足に触れる動きでリズムを表現するなどの創意工夫を生かした表現をする ・「この曲の前半は、ゆったりとしていて静かな雰囲気を感じ取り、後半は躍動的で力強い雰囲気がある」と感じ取った生徒が旋律やリズムの変化に着目して、手や身体全体をゆったりと滑らかな動きのある身体表現から力強い動きで大きな動きに変化させながら身体表現するなど、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを、生徒自身が感じ取り表現する ・身体表現を複数で行うことにより、統一感が感じられる動きとして表す
B 鑑賞	ア 鑑賞の活動 (ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。 (イ) 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。 (具体的な内容の例) ・「ゆったりとしておだやかな感じから、動きのあるにぎやかな感じに変わったのは、低音の単独の楽器がゆっくりなテンポで演奏されていた音楽から、高音の複数の楽器が速いテンポで演奏される音楽になったから」といった音楽を形づくっている要素や要素同士の関連路の関係を理解する	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどについて自分なりに考え、曲全体を味わって聴くこと。 (イ) 次の②及び④について理解すること。 ② 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わり ④ 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史などとの関わり
[共通事項]	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」 ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考えること。 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。	

目標・内容の一覧（美術）

高等部		
教科の目標		
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	（３）美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	イ 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	ウ 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「思考力、判断力、表現力等」、(イ)は「知識及び技能」として整理

内容	１段階	２段階
A 表現	ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくったりする活動	
	（ア）対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	（ア）対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
	（イ）材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。	（イ）材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。
B 鑑賞	（具体的な内容の例） ・絵や版画の題材：人物や動植物、静物や風景の観察や描写、学校行事や社会行事などの員祖湯、想像画、紙版、木版、ゴム版、スチレンボード版 ・デザインの題材：ポスター、案内表示・標識、表紙装丁デザイン、カット、模様・装飾 ・彫刻や立体の題材：人、動植物、乗り物、建築物 ・工芸の種類：織物、紙工、革工、木工、金工、七宝焼き、焼き物の器物 ・主な材料や用具：水彩絵の具、ポスターカラー、色鉛筆、ペン、パステル、色紙、粘土、木、石、布、紙、金属、プラスチック、スチレンボード、ニス、水性・油性塗料、塗装用具、接着剤、彫刻刀、簡易な木材・金属加工用具、電動の糸のこぎり、研磨機などの電動工具 ・主題を基に構想を練る際に、どのような材料を用い、どのような方法で表現するのか、構想している内容が技術的に実現可能なかなど考える	
	ア 美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞の活動	（ア）美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
	（イ）生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	（イ）生活や社会の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
[共通事項]	（具体的な内容の例） ・文化遺産などの鑑賞を通して、そのよさに気付き、美術文化と伝統を実感する ・設定されたいくつかの鑑賞の視点をともに鑑賞し、自分一人では気付くことのできない多様な見方や感じ方に気付く 等	
	ア 「A表現」及び「B鑑賞」	
	（ア）形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。	
	（イ）造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。	

目標・内容の一覧（保健体育）

高等部		
教科の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）各種の運動の特性に応じた技能等並びに個人生活及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）各種の運動や健康・安全についての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて仲間と思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）生涯にわたって継続して運動に親しむことや、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	
段階の目標	1 段階	2 段階
知識及び技能	ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	ア 各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。	イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自己の最善を尽くして自主的に運動をする態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に積極的に取り組む態度を養う。	ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に自主的に取り組む態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めよう。

内容	1 段階	2 段階
A 体づくり運動 【3学年間にわたって取り扱うこと】	体づくり運動 ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、その行い方や方法を理解するとともに、仲間と積極的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりすること。 イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを深く味わい、その行い方や方法の理解を深めるとともに、仲間と自主的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりするとともに、それらを組み合わせること。 イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
	（具体的な内容の例） 【体ほぐしの運動】 ・伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動、緊張したり緊張を解いて脱力したりする運動 ・リズムに乗って心が弾むような動作での運動 ・いろいろな条件で歩いたり走ったり跳んだりする運動 ・仲間と協力して課題を達成するなど、集団で挑戦するような運動 ・ラジオ体操や地域で親しまれている曲に合わせて行う体操 【多様な動きをつくる運動】 ・大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ったり、回したり、ねじったり、曲げ伸ばしたりする ・体の各部位をゆっくり伸展し、そのままの状態でも約10秒間維持する ・人と組んだり、用具を利用したりしてバランスを保持する ・床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに歩く、走る、跳び及び素早く移動する ・重い物を押す、引く、投げる、受ける、振る及び回す ・走や縄跳びなどを、一定の時間や回数、又は、自己で決めた時間や回数を持続して行う ・体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力をたかめる運動、それらの能力を高めるために効率よく組み合わせた運動 ・体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力をたかめる運動、それらの能力を高めるために狙いが異なる運動をバランスよく組み合わせた運動	
B 器械運動	器械運動 ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技を身に付けること。 イ 器械運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 器械運動の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や器械・器具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技を身に付け、演技すること。 イ 器械運動についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ 器械運動の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や器械・器具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。

内容	1 段階	2 段階
B 器械運動	(具体的な内容の例) 【マット運動】補助倒立、補助倒立前転、伸膝後転、側方倒立回転 【鉄棒運動】前方かかえ込み回り、逆上がり、前方支持回転、後方支持回転 【平均台を使った運動】前方走、片足水平バランス、台上を歩いたり走ったりする移動(体操系歩走)、台上へ跳び上がる 跳び下りる、台上で跳躍する、台上でいろいろな姿勢でポーズをとる、台上での方向転換 【跳び箱運動】かかえ込み跳び、伸膝台上前転 等	
C 陸上競技	陸上競技 ア 陸上競技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付けること。 イ 陸上競技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上競技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	
	ア 陸上競技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けること。 イ 陸上競技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ 陸上競技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。	
D 水泳	水泳 ア 水泳の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに泳法を身に付けること。 イ 水泳についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 水泳の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	
	(具体的な内容の例) ・クロール、ゆったりとしたクロール ・平泳ぎ、ゆったりとした平泳ぎ ・背泳ぎ ・バタフライ ・スタート及びターン：水中からスタートする(水中でプールの壁を蹴り抵抗の少ない流線型の姿勢で浮き上がりのためのキックを用いて速い速度で泳ぎ始める)、クロールと背泳ぎでは片手で、平泳ぎとバタフライは両手でプールの壁をタッチし膝を抱えるようにして体を反転し蹴り出す 等	
E 球技	球技 ア 球技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。 イ 球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	
	ア 球技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、ゲームを行うこと。 イ 球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。	
	(具体的な内容の例) ・バスケットボール、サッカーなど(を基にした簡易化された)のゲーム(パス、ドリブル、攻守の動き、シュート、ボールキープ、相手マーク、パスを受けるための動き、得点しやすい空間にいる味方へのパス) ・ソフトバレーボール、バドミントン、卓球など(を基にした簡易化された)のゲーム(相手コートに向けたサービス、片手両手もしくは用具をつかって相手コートにボールやシャトルを打ち返す、相手に正対する) ・フットバレーボール、ティーパー、ソフトボールなど(を基にした簡易化された)のゲーム(バットでフェアグラウンド内に打つ、打球方向に移動し捕球、捕球する相手に向かって投げる、塁間を全力で走塁、守備隊形を整えた守備、肩越しにバットを構えバットを振り抜く、投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し体重移動をさせながら大きな動作でねらった方向にボールを投げる) 等	

内容	1 段階	2 段階
F 武道	武道 ア 武道の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。 イ 武道についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 武道の多様な経験を通して、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ア 武道の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に応じた攻防を展開すること。 イ 武道についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ 武道の多様な経験を通して、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
	（具体的な内容の例） 【柔道】投げ技の取と受（大外刈り、体落とし、大腰）、固め技の取と受（上四方固め、相手の動きの変化に応じながらけさ固め、横四方固め、上四方固めの連絡） 【剣道】引き面、面抜き胴、小手抜き面、面-面 【相撲】押し-いなし、寄り-巻き返し、下手投げ-受け身 ※安全を考慮し、攻防相手を人形で行うなどの工夫も考えられる。 等	
G ダンス	ダンス ア ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、技能を身に付け、表現や踊りを通じた交流をすること。 イ ダンスについての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ ダンスの多様な経験を通して、仲間の表現を認め助け合ったり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを深く味わい、その行い方の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、表現や踊りを通じた交流や発表をすること。 イ ダンスについての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ ダンスの多様な経験を通して、一人一人の表現や役割を認め助け合ったり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
	（具体的な内容の例） 【創作ダンス】身近な生活や日常動作などのテーマから連想する動きを取り入れた踊り 【フォークダンス（日本民謡、外国の踊り）】掛け声と歯切れのよい動き、滑らかなパートナーチェンジ、鳴子のリズムに合わせた動き、労働の作業動作に由来をもつ踊り、グレイプハインステップ 【現代的なリズムのダンス（ロックやヒップホップなど）】ビートに乗れるような自然な弾みやスイング、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたく、ストップを入れる、相手の動きに合わせた動き、動きに変化を付けた踊り 等	
H 体育理論	体育理論 ア 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義に気付くこと。 イ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 ウ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての学習に積極的に取り組むこと。	ア 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義に関する基礎的な知識を身に付けること。 イ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。 ウ 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組むこと。
	（具体的な内容の例） ・テレビなどのメディアや競技場等での観戦を通して一体感を味わったり、研ぎ澄まされた質の高い動きに感動したりする ・運動やスポーツの歴史や記録などを書物やインターネットなどで調べる ・運動やスポーツが、身体の発達やその機能、体力や運動の技能の維持、向上させるという効果がある、食生活の改善と関連させた肥満予防の効果があることを知る ・適切な運動やスポーツが自己の能力の自信につながったりストレスを解消したりリラックスしたりできることを知る ・オリンピック・パラリンピック競技大会や国際的なスポーツ大会により、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを知る 等	
H 保健 【3学年間にわたって取り扱うこと】	保健 ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等を理解するとともに、健康で安全な個人生活を営むための技能を身に付けること。 イ 健康・安全に関わる自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等の理解を深めるとともに、健康で安全な個人生活及び社会生活を営むための目的に応じた技能を身に付けること。 イ 健康・安全に関わる自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
	（具体的な内容の例） ・すり傷、鼻出血、やけどや打撲などへの簡単な応急手当、AEDの使用を含む心肺蘇生法などの応急手当の仕方を知る ・喫煙、飲酒、薬物乱用に対して健康的な生活態度や望ましい行動を身に付ける意識を高める ・身体的な成熟に伴う性的な発達に対して異性の尊重や性情報への対処について理解し、性犯罪などの事件・事故等に巻き込まれないよう適切な態度や行動の選択を身に付ける ・ストレスへの対処として、話を聞いてもらう、相談する、コミュニケーション方法を身に付ける、規則正しい生活をする ・交通安全や自然災害などの備えとして、周囲の状況をよく見極め、危険に気付き、的確な判断の下に行動する、地域の実情に応じて気象災害や火山災害について知る、運転免許取得を見据え自転車や自動車の特性や交通法規を知る ・インフルエンザ、生活習慣病やがんの予防について適度な運動や食事の量、頻度、栄養素のバランス、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生などについて知る ・異性との交際の在り方、身だしなみや服装、態度など適切な行動を身に付ける ・心の発達などに伴って生じるストレスへは、原因についての受け止め方を見直す、リラクゼーション方法等を知る 等	

目標・内容の一覧（職業）

高等部		
教科の目標		
職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

※下記「内容」の各段階に示す(ア)は「知識及び技能」、(イ)は「思考力、判断力、表現力等」、(ウ)は「学びに向かう力、人間性等」として整理

内容	１段階	２段階
A 職業生活	ア 勤労の意義 勤労に対する意欲や関心を高め、他者と協働して取り組む作業や実習等に関わる学習活動 （ア）勤労の意義を理解すること。 （イ）意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。 （ウ）作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むこと。 （具体的な内容の例） ・職場見学や産業現場等における実習を通して、多くの人々が社会の中で働きながら生活をしていることや働くことを誇りとしていること、働くことを通して充実や生きがいをもてるようになることなどを実感する ・作業工程における自分の役割を確実にやり、最後までやり遂げる意義や協力することで得られる効率性や中間との連帯感について考える ・必要に応じて報告や質問をする ・地域での販売や作業を通じた地域貢献などの実践的・体験的な学習活動を通して、製品や作物、作業活動等の社会的な有用性について理解する ・他者から喜ばれたり、感謝されたりする体験を通して、自らの取組が作業全体や地域への貢献通なることを実感する 等	
	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動 （ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ⑦ 職業生活に必要な実践的な知識及び技能を身に付けること。 ⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。 ⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。 ⑩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ⑦ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ⑧ 生産や生育活動等に関わる技術について考えること。 ⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。 ⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。 （具体的な内容の例） ・職場の組織が分かり、組織の一員として働くこと、労働時間、賃金、年次休暇、福利厚生などの基本的な労働条件を知る ・健康保険、雇用保険、年金などの制度のあらましを知る ・仕事に関連する伝達、作業伝票の処理、日報の記入などの簡単な実務を正確に行う ・就職に向けた相談や準備・訓練、就職活動や雇用前支援、雇用定着支援、離職・転職等の支援等の相談先、利用方法、生活の場や生活費、生活に対する助助、余暇活動を含めた日中活動への支援等の相談先、利用方法を知る ・材料や製品、収穫物の特徴を理解し、それぞれに適した方法で決められた場所に安全や衛生に留意して保管すること、仕事に関連する作業指示書、在庫表、報告書などが分かり、実務を適切に行う、機械等が婦長になった場合や不良品がでた場合は適切に対応する ・作業の要領や特に注意を要する箇所が分かり、自分の作業を評価し必要に応じて修正するなど、技術を高める 等	
	（ア）勤労の意義について理解を深めること。 （イ）目標をもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。 （ウ）作業や実習等を通して貢献する喜びを体得し、計画性をもって主体的に取り組むこと。	（ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ⑦ 職業生活に必要な実践的な知識を深め技能を身に付けること。 ⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。 ⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。 ⑩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。 ⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ⑦ 作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ⑧ 生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。 ⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。 ⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。
	（ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ⑦ 職業生活に必要な実践的な知識及び技能を身に付けること。 ⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。 ⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。 ⑩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ⑦ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ⑧ 生産や生育活動等に関わる技術について考えること。 ⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。 ⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。 （具体的な内容の例） ・職場の組織が分かり、組織の一員として働くこと、労働時間、賃金、年次休暇、福利厚生などの基本的な労働条件を知る ・健康保険、雇用保険、年金などの制度のあらましを知る ・仕事に関連する伝達、作業伝票の処理、日報の記入などの簡単な実務を正確に行う ・就職に向けた相談や準備・訓練、就職活動や雇用前支援、雇用定着支援、離職・転職等の支援等の相談先、利用方法、生活の場や生活費、生活に対する助助、余暇活動を含めた日中活動への支援等の相談先、利用方法を知る ・材料や製品、収穫物の特徴を理解し、それぞれに適した方法で決められた場所に安全や衛生に留意して保管すること、仕事に関連する作業指示書、在庫表、報告書などが分かり、実務を適切に行う、機械等が婦長になった場合や不良品がでた場合は適切に対応する ・作業の要領や特に注意を要する箇所が分かり、自分の作業を評価し必要に応じて修正するなど、技術を高める 等	（ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ⑦ 職業生活に必要な実践的な知識を深め技能を身に付けること。 ⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。 ⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。 ⑩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。 ⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ⑦ 作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ⑧ 生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。 ⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。 ⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。
	（ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ⑦ 職業生活に必要な実践的な知識及び技能を身に付けること。 ⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。 ⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。 ⑩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ⑦ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ⑧ 生産や生育活動等に関わる技術について考えること。 ⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。 ⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。 （具体的な内容の例） ・職場の組織が分かり、組織の一員として働くこと、労働時間、賃金、年次休暇、福利厚生などの基本的な労働条件を知る ・健康保険、雇用保険、年金などの制度のあらましを知る ・仕事に関連する伝達、作業伝票の処理、日報の記入などの簡単な実務を正確に行う ・就職に向けた相談や準備・訓練、就職活動や雇用前支援、雇用定着支援、離職・転職等の支援等の相談先、利用方法、生活の場や生活費、生活に対する助助、余暇活動を含めた日中活動への支援等の相談先、利用方法を知る ・材料や製品、収穫物の特徴を理解し、それぞれに適した方法で決められた場所に安全や衛生に留意して保管すること、仕事に関連する作業指示書、在庫表、報告書などが分かり、実務を適切に行う、機械等が婦長になった場合や不良品がでた場合は適切に対応する ・作業の要領や特に注意を要する箇所が分かり、自分の作業を評価し必要に応じて修正するなど、技術を高める 等	（ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ⑦ 職業生活に必要な実践的な知識を深め技能を身に付けること。 ⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。 ⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。 ⑩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。 ⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ⑦ 作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ⑧ 生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。 ⑨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。 ⑩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。

内容	1 段階	2 段階
B 情報機器の活用	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動	
	ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて知るとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を知り、操作の仕方が分かり、扱えること。 イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことを発表すること。	ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、目的に応じて適切に操作すること。 イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことについて適切に表現すること。
	（具体的な内容の例） ・タブレット（携帯用端末）を含んだコンピュータ等の情報機器、固定電話やスマートフォンを含んだ携帯電話、ファクシミリ等の通信機器、複写機（コピー機）等の事務機器などの基本的な特性や機能、操作方法、インターネット等の情報通信ネットワークを安全に利用するための情報の管理方法やルールやマナーなどを知る ・SNSや通信用ソフトウェア、無線LAN回線等を使用する際に、情報通信ネットワーク上において自分が発信した情報に誰でもアクセスでき、一旦拡散した情報は削除できないことを知ること、個人認証の仕組みがあること、不用意にデータをダウンロードしたり、不審なファイルを開いたりしないなどの情報セキュリティ及び情報モラルを知る、コンピュータウイルス対策ソフトウェアのインストールやそれらを更新することの必要性を知る ・「ネット依存」などの問題が発生する危険性や、トラブルに巻き込まれた際の対応について知る ・インターネットを介した買物などを適切に行うためのクレジットカードやキャッシュカード、またはマイナンバー等の個人情報の取扱いに関しては特に管理を要するものとして扱う ・インターネット等の情報通信ネットワークを活用して情報収集し、プレゼンテーションソフトウェアなどを使用してデータを作成し、発表する、文章作成ソフトウェアのファンクションキーを活用した操作、表計算ソフトウェアの数式やグラフの活用、画像ソフトウェアの加工処理などを行う ・学校行事の開催等を地域に周知するチラシやパンフレット、ポスターなどを分かりやすく伝わるよう文字や画像を工夫して作成する	
C 産業現場等における実習	産業現場等における実習	
	ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。 イ 産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現すること。	ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解を深めること。 イ 産業現場等における実習で課題の解決について考えたことを表現すること。
	就業体験や産業現場等における実習を計画するに当たっては、あらかじめ教育課程に適切に位置づけるとともに、以下のことに留意すること ア 生徒本人の実習に向けた意思を確認するとともに、関係諸機関や家庭との連携に基づいて実習を計画すること。 イ 実習先の開拓に当たっては、学校の教育活動として実習を行うことが実習先に理解されるようにすること。 ウ 実習先における担当者及び仕事内容を確認し、必要に応じて実習先の担当者による面接などを依頼すること。 エ 実習開始前までに、通勤の練習をしたり、仕事内容や実習先で必要とされる勤務態度に関する学習をしたりすることができるようにすること。 オ 実習期間を定めるとともに、実習中の指導計画を作成すること。 カ 実習先に対して実習中の生徒の評価を依頼すること。	

目標・内容の一覧（家庭）

高等部		
教科の目標		
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	
段階の目標	１段階	２段階
知識及び技能	ア 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	１段階	２段階
A 家族・家庭生活	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動	
	（ア）自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。 （イ）家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	（ア）自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。 （イ）家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	（具体的な内容の例） ・家族が家庭生活の中でそれぞれに応じた仕事を分担し、その仕事をやり遂げることで互いに支え合っていることの理解 ・家族の団らんに加わり、家族の心情を受け止めるために工夫することを考える	
	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動	
	（ア）家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。 （イ）家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	（ア）家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。 （イ）家庭と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	（具体的な内容の例） ・家族との触れ合いや団らの時間や場で楽しくする方法などを考える ・地域で共に生活している幼児や高齢者など異なる世代の人々との関係をよりよいものにするために自分が協力できることを考える	
	ウ 家庭生活における健康管理と余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動	
	（ア）健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。 （イ）健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。	（ア）健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。 （イ）健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。
	（具体的な内容の例） ・家庭での食事、睡眠、生活習慣、生活リズム等が及ぼす健康への影響を理解する ・家庭等において、スポーツや音楽鑑賞、ペットの飼育、植物の栽培などの余暇の過ごし方 ・親戚や友達の家を訪問したり、来客の対応をしたりする	
	エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動	
	（ア）乳幼児や高齢者などの生活の特徴、乳幼児や高齢者などとの関わり方について気付くこと。 （イ）乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、表現すること。	（ア）乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などとの関わり方について理解すること。 （イ）乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	（具体的な内容の例） ・乳幼児と触れ合うことで、遊びや食事などの活動の様子や着衣などから、乳幼児の生活の特徴に気付く ・療養中の家族や介護の必要な高齢者の食事、服薬、睡眠などの様子から通常とは異なる配慮が必要なが分かる	

内容	1 段階	2 段階
B 衣食住の生活	ア 食事の役割 食事の役割に関わる学習活動 (ア) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。 (イ) 健康によい食習慣について考え、工夫すること。 (具体的な内容の例) ・行事食や郷土料理など、食事が文化を伝える役割があることを知る ・欠食や偏食を避け、栄養のバランスがよい食事をとること ・1日3食を規則正しくとること、運動、休養をとることなども踏まえ、自分の食習慣の課題を解決する	ア 必要な栄養を満たす食事 自分に必要な栄養を満たす食事に関わる学習活動 (ア) 自分に必要な栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。 (イ) 一日分の献立について考え、工夫すること。 (具体的な内容の例) ・炭水化物と脂質は主として体内で燃焼してエネルギーとなること、タンパク質は主として筋肉、血液などの体を構成する成分となるだけでなくエネルギー源としても利用されること、無機質にはカルシウムや鉄などがありカルシウムや骨や歯の成分、鉄は血液の成分となるなどの働きと、体の調子を整える働きがあること、ビタミンにはA、B₁、B₂、C、Dなどの種類がありいずれも体の調子を整える働きがあること
	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動 (ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。 (イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。	(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。 (イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・目的、栄養、価格、調理の能率、環境への影響などの諸条件を考えて選択する ・生鮮食品について、調理実習で用いる魚、肉、野菜などの食品の鮮度や品質の見分け方を知る ・加工食品について、原材料や期限、保存方法などの表示を理解して用途に応じて選択する ・魚や肉などの生の食品について食中毒の予防のための食品の保存方法、保存期間の関係、ゴミの適切な処理方法を知る ・調理実習に用いる用具を中心に正しい使い方や安全な取扱い方を知る ・ゆでる、いためる、煮る、焼く、蒸す等について、火加減の調節、加熱器具の適切に操作し、基礎的な日常食の調理をする、煮るについては材料の種類や切り方などによって煮方が異なることや調理の仕方が汁によって異なることなどを知る、焼くについては直火焼き、フライパンやオーブンなどを用いた間接焼き、それぞれの特徴を知る、蒸すについては、ゆでる、いためると比較することで水蒸気で加熱する蒸し調理の特徴を知る ・魚や肉は加熱することで衛生的で安全になること、魚の種類や肉の部位等によって調理方法が異なること、主な成分であるタンパク質が加熱によって変性・凝固し、硬さ、色、味、においが変化するため、調理の目的に合った加熱方法を知る ・野菜は生食できること、食塩をふると水分がでてしなやかになること、加熱すると組織が軟らかくなることなどを知る、野菜の切り口が偏食することや緑黄色野菜は加熱のしすぎにより色が悪くなることの防止する方法を知る ・衛生的な観点から食品によっての適切な洗い方を知る、安全な包丁の使い方、食べられない部分の切除、食べやすさ、加熱しやすさ、調味料のしみ込みやすさ、見た目の美しさなどを考えて適切に切る ・調味料について、食塩、みそ、しょうゆ、さとう、食酢、油脂などを用いて、調理の目的に合った調味ができる、計量器の適切な使用方法を知る ・盛り付けや配膳について、料理の外観がおいしさに影響を与えることを知る	
	ウ 衣服の選択 衣服の選択に関わる学習活動 (ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 (イ) 衣服の選択について考え、工夫すること。 (具体的な内容の例) ・学校生活や行事、訪問などの目的に応じた、それぞれの場に応じた着用があることを知る ・組成表示、取扱い表示、サイズ表示等の意味を理解する、縫製の良否、手入れの仕方、手持ちの衣服との組合せ、価格などに留意し、目的に応じて衣服の購入を考える	ウ 衣服の手入れ 衣服の手入れに関わる学習活動 (ア) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。 (イ) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。 (具体的な内容の例) ・綿、毛、ポリエステルなどの丈夫さ、防しわ性、アイロンかけの効果、洗濯による収縮性など基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解する ・洗濯について、綿と毛、同じ綿でも織物と編物により布の収縮や型くすれに配慮した洗い方や干し方
	エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動 (ア) 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。 (イ) 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。 (具体的な内容の例) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを行う、直線縫いを主としたミシン縫いを行う ・型紙に合わせて裁断し、ミシンを使って作る簡単な小物や袋物の製作計画を考え、ミシンを使った製作を工夫する	(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。 (イ) 布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。
	オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 住居の基本的な機能や快適で安全な住まい方に関わる学習活動 (ア) 家族の生活と住空間との関わりや住居の基本的な機能について知ること。 (イ) 家族の安全や快適さを考えた住空間について考え、表現すること。 (具体的な内容の例) ・布団とベッドによる就寝の形態や押し入れとクローゼットによる収納の形態など住居には和式と洋式を組み合わせた住空間の使い方があることを知る ・住居は家族の安定した居場所、心身の安らぎと健康を維持する働き、子どもが育つ基盤としての働きがあることを知る等	
	(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。 (イ) 家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。	(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。 (イ) 家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・布団とベッドによる就寝の形態や押し入れとクローゼットによる収納の形態など住居には和式と洋式を組み合わせた住空間の使い方があることを知る ・住居は家族の安定した居場所、心身の安らぎと健康を維持する働き、子どもが育つ基盤としての働きがあることを知る等	
	(具体的な内容の例) ・綿、毛、ポリエステルなどの丈夫さ、防しわ性、アイロンかけの効果、洗濯による収縮性など基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解する ・洗濯について、綿と毛、同じ綿でも織物と編物により布の収縮や型くすれに配慮した洗い方や干し方	
	(具体的な内容の例) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを行う、直線縫いを主としたミシン縫いを行う ・型紙に合わせて裁断し、ミシンを使って作る簡単な小物や袋物の製作計画を考え、ミシンを使った製作を工夫する	
	(具体的な内容の例) ・綿、毛、ポリエステルなどの丈夫さ、防しわ性、アイロンかけの効果、洗濯による収縮性など基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解する ・洗濯について、綿と毛、同じ綿でも織物と編物により布の収縮や型くすれに配慮した洗い方や干し方	

内容	1 段階	2 段階
C 消費生活・環境	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動	
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。 ㊧ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができること。 (イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 ㊧ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 (イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。
	(具体的な内容の例) ・インターネットを介した通信販売の利点と問題点、支払時期（前払い、即時払い、後払い）の違いと特徴を知る ・多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理の必要性に気付く ・安全性、機能、価格、環境への配慮、アフターサービス等の観点や関連する品質表示や成分表示、各種マークを基に、比較検討し、情報の信頼性を吟味する	
	イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動	
	(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。 (イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、表現すること。	(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。 (イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫すること
	(具体的な内容の例) ・消費者が購入した物資・サービスに不具合があったり、被害があったりした場合に、そのことについて適切に主張し行動する責任を果たすことなどが、消費者被害の拡大を防ぐことに気付く ・物資・サービスの購入から廃棄までの自分や家族の消費行動が、環境への負荷を軽減させたり、企業の商品改善への働きかけにつながることに気付く ・消費者教育の推進に関する法律（消費者教育推進法）の定義に基づく消費者市民社会の担い手として行動できるよう、消費生活と環境を一層関連させて学習する	

目標・内容の一覧（外国語）

高等部		※外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。
教科の目標		
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１）外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
段階の目標	１ 段階	２ 段階
知識及び技能	ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すことを中心とした実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。	ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などを真似ながら読んだり、外国語の文字をなぞって書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	1 段階	2 段階
知識及び技能	ア 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動	
	(ア) 英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ㊦ 英語の音声を聞いて話したり、文字を見て読んだり書いたりして日本語の音声や文字などとの違いに気付くこと。 ㊧ 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。 ㊨ 簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。	(ア) 英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ㊦ 英語の音声を聞いて話したり、簡単な語彙などを読んだり書いたりして日本語の音声や文字などとの違いに気付くこと。 ㊧ 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。 ㊨ 簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。
	(具体的な内容の例) ・英語の歌、文字、食べ物やスポーツ、生活用品などの名称といった音声や、挨拶、指示、質問などの基本的な表現を用いる ・言語活動や言語の使用場面で用いる簡単な語句や基本的な表現表す内容を知り、それらを実際のコミュニケーションの場面で使うことで、要件が相手に伝わることを実感する ・意図的に言葉を使うよう、互いに事物の内容や要件を伝え合う活動を行う	
	等	
思考力・判断力・表現力等	イ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現すること	
	(ア) 簡単な事柄について、伝えようとした内容を整理した上で、簡単な語句などを用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。 (イ) 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。	(ア) 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で簡単な語句や基本的な表現などを用いて伝え合うこと。 (イ) 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。
	(具体的な内容の例) ・自分のこと、友達や家族、学校生活など身近で簡単な事柄について、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて内容を整理した上で、簡単な語句などの中から適切なものを選び、自分の考えや気持ちなどを伝え合う、例えば、買い物の場面において、相手とのやり取りの中で買いたい物の名称や色、数などを伝える ・語の綴りが添えられた写真や絵カードを見ながら何度も聞いたり話したりしてその音声に十分に慣れ親しんだ語が文字のみで提示された場合、その表す事物や動作などを思い浮かべながら読む、例えば、「milk」という語を読み牛乳を思い浮かべたり、「eat」という語を読み食べる動作を思い浮かべる	
	等	
	ウ 言語活動及び言語の働きに関する事項	
	①言語活動に関する事項 イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。	

内容	1 段階	2 段階
思考力・判断力・表現力等	(ア) 聞くこと ㊦ 自分に関する簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 ㊧ 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、表示などを参考にしながら具体的な情報を聞き取る活動。 (イ) 話すこと[発表] ㊦ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めて自己紹介をする活動。 (ウ) 話すこと[やり取り] ㊦ 挨拶を交わしたり、簡単な指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。 (エ) 書くこと ㊦ 活字体の大文字、小文字を区別して書く活動。 ㊧ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。 ㊨ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。 (オ) 読むこと ㊦ 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。 ㊧ 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を発音する活動。	(ア) 聞くこと ㊦ 自分のことや学校生活など身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 ㊧ 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。 ㊨ 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真を参考にしながら聞いて、必要な情報を聞き取る活動。 (イ) 話すこと[発表] ㊦ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを話す活動。 (ウ) 話すこと[やり取り] ㊦ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。 (エ) 書くこと ㊦ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。 ㊧ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。 (オ) 読むこと ㊦ 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。 ㊧ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを、挿絵がある本などの中から識別する活動。
	(具体的な内容の例) ・ “I belong to the chorus club. I'm good at singing.” や “I get up at six every morning. And I go to school by bus.” といった自己紹介で述べるような出身地、得意なことなど、一日のスケジュール、週末の出来事、休暇の予定などについて聞く ・ 自己紹介の場面で、カレンダーを参考にしながら友達の誕生日などを聞き取ったり、時計や時刻が書かれたものなどを参考にしながら友達の起床時刻などを聞き取ったりする、例えば、“My birthday is May twenty first.” と話されたのを聞き「5月21日」と結び付ける ・ “My birthday is ~.” “I have/play/watch ~.” “I'm good at ~.” “I want to ~.” など、自己紹介の場面で得意なことや趣味などを伝える内容を増やす ・ 学級での自己紹介やレストランで客と店員になりきって行う活動に取り組む、レストランの会話であれば、A: What would you like? B: I'd like pizza. A: OK. How about drinks? B: No, thank you. など ・ 「聞くこと」で文字の読み方に親しみ、「読むこと」で文字を識別したり、発音したりした後に「書くこと」を行う ・ ドリル学習に終始するのではなく何らかの書く目的をもって書いたり、ゲーム的要素の中で書いたりする ・ 四線上に正しく書く、生徒の実態に応じて、大文字、小文字を段階的に書く ・ 一文字ずつ書かれたカードの中から「/ei/」と文字の名称が読まれるのを聞いて、「A」や「a」のカードを選ぶ ・ 複数の異なる人物のイラストを同時に見て、“long hair” “a white shirt” “red glasses” と話されるのを聞いてこれらの表現に合うイラストを選ぶ活動や生徒の絵やアルバムなどを見ながら教師が英語でゆっくり説明するのを聞く ・ 教師が “Hello. I want to be a pilot. I want to visit many countries. ...” などと話している英語を、その内容に関係するイラストや写真等を見ながら、就きたい職業、その理由などの情報を聞き取る ・ “Naha is a beautiful city. I like Naha. I want to go to Naha.” など修学旅行で興味・関心があることについて話す ・ 身近な簡単な事柄について、質問したり答えたりしながら、自分の考えや気持ちを伝え合う活動に取り組む、例えば、A: I like sushi very much. It's delicious. B: Me, too. Sushi is delicious. I like salmon. Do you like it (salmon)? A: Yes, I like salmon, too. など ・ 自分が好きな人や好きなことを他者に紹介する活動において “I like baseball.” を例としながら、“baseball” の語を替え、“I like music.” と、書き写す活動を踏まえて例となる文を見ながら書く活動を行う ・ 海外旅行のパンフレットを模した紙面を読んで、行きたい国で有名な食べ物などの情報を得たり、テレビ番組欄を模した紙面を読んで、曜日や見たいスポーツなどの情報を得たりする活動に取り組む	
	㊦ 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	㊦ 言語の働きに関する事項 2段階の言語活動を行うに当たっては、1段階の言語の働きに関する事項を踏まえ、生徒の学習状況に応じた言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。
	(ア) 言語の使用場面の例 ㊦ 特有の表現がよく使われる場面・挨拶・自己紹介・買物・食事・道案内・旅行など ㊧ 生徒の身近な暮らしに関わる場面・学校での学習や活動・家庭での生活・地域での生活など	
	(具体的な内容の例) ・ 挨拶 例1 A: Good morning. How are you? B: I'm fine, thank you. 例2 A: Good bye. B: See you tomorrow. ・ 自己紹介 例1 Hi, I'm Suzuki Emi. I like baseball very much. 例2 My name is Shinya. I live in Tokyo. Nice to meet you. ・ 買物 例1 店員: May I help you? 客: Yes, I'm looking for a bag. 例2 客: How much is it? 店員: Five hundred yen, please.	

思考力・判断 力・表現力等	・学校での学習や活動 例 1 A : Do you have a Japanese class today? B : Yes, I do. / No, I don' t. 例 2 A : Pass me that pen. B : Here you are. 例 3 A : How many? B : Eight. 例 4 This is the music room. 例 5 A : When is your school trip? B : In October.	・家庭での生活 例 1 I get up at six every morning. I go to school. 例 2 A : What time is it? B : It' s ten thirty. 例 3 I eat breakfast. 例 4 This is my brother. He is twelve years old. 例 5 A cat is under the table. ・地域での生活 例 1 Let' s go to the summer festival. 例 2 A post office is near my house. 例 3 I belong to the basketball club. 等
	(イ) 言語の動きの例 ㊸ コミュニケーションを円滑にする・挨拶をする・呼び掛ける・相づちを打つ・聞き直すなど ㊹ 気持ちを伝える・礼を言う・褒める・謝るなど ㊺ 事実・情報を伝える・説明する・報告する・発表するなど ㊻ 考えや意図を伝える・意見を言う・賛成する・承諾する・断るなど ㊼ 相手の行動を促す・質問する・依頼する・命令するなど	
	(具体的な内容の例) ・挨拶をする 例 1 Good morning. 例 2 Good afternoon. ・呼び掛ける 例 1 Hello, Ken. 例 2 Excuse me. ・相づちを打つ 例 1 Oh, I see. 例 2 Really? ・聞き直す 例 1 Sorry? 例 2 Pardon me? ・礼を言う 例 1 Thank you very much. 例 2 Thanks. ・褒める 例 1 Great. 例 2 Good job. ・謝る 例 1 Sorry. 例 2 I' m sorry. ・説明する 例 1 This is my favorite food. 例 2 He is very kind. ・報告する 例 1 She can play volleyball well. 例 2 We went to Kyoto. ・発表する 例 1 This is my brother. 例 2 His birthday is April 6th.	・意見を言う 例 1 I want to watch baseball on TV. 例 2 It is exciting. ・賛成する 例 1 Yes, let' s. 例 2 That' s a good idea. ・承諾する 例 1 A : Let' s play soccer. B : OK. 例 2 A : I want to play basketball. B : Me, too. ・断る 例 1 A : May I help you? B : No, thank you. 例 2 A : Let' s play basketball. B : Sorry. I can' t. ・質問する 例 1 A : What sport do you like? B : I like soccer. 例 2 A : Can you sing well? B : Yes, I can. ・依頼する 例 1 Please help me. 例 2 Come here, please. ・命令する 例 1 Go straight. 例 2 Close the door. 等

目標・内容の一覧（情報）

高等部		
教科の目標		
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、身近にある情報機器の操作の習得を図りながら、問題の解決を行う学習活動を通して、問題を知り、問題の解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	（１） 身近にある情報と情報技術及びこれらを活用して問題を知り、問題を解決する方法について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解できるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	（２） 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	（３） 身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。	
段階の目標	1 段階	2 段階
知識及び技能	ア 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピュータやデータの活用について知り、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて知る。	ア 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピュータやデータの活用について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解する。
思考力、判断力、表現力等	イ 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を活用する力を養う。	イ 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 身近にある情報や情報技術を活用するとともに、情報社会に関わろうとする態度を養う。	ウ 身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。

※生徒が、どの段階の目標にあたるかを○で囲むなどして、段階の把握に努めましょう。

内容	1 段階	2 段階
A 情報社会の問題解決	身近にある情報や情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法に着目し、解決に向けた活動	
	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア） 身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピュータ等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを知り、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。 （イ） 情報に関する身近で基本的な、法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて知ること。 （ウ） 身近にある情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について知ること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア） 目的や状況に応じて、身近にある情報や情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法について考えること。 （イ） 情報に関する身近で基本的な、法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて考えること。 （ウ） 身近にある情報や情報技術の活用について考えること。	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア） 身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピュータ等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。 （イ） 情報に関する身近で基本的な、法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。 （ウ） 身近にある情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について基本的な理解をすること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア） 目的や状況に応じて、身近にある情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を知り、問題を解決する方法について考えること。 （イ） 情報に関する身近で基本的な、法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を捉え、考えること。 （ウ） 身近にある情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の在り方について考えること。
	（具体的な内容の例） ・知的財産に関する法律、個人情報保護に関する法律及び不正アクセス行為の禁止等に関する法律などを知る ・電子メールやSNSの書き方やファイル添付などのマナーの意義や基本的な内容、情報の適切な管理の責任、情報セキュリティを確保するためのパスワードの管理などを知る ・インターネット上で起こるトラブルやSNSでのコミュニティサイトを利用した犯罪、情報が拡散する速さや一度拡散された情報は削除が困難であること、トラブルや犯罪は身近で発生していることなどを知る ・電子マネーやICカード、ICチップなどの普及によって自動改札やセルフレジが増加したことなどを知る ・自分たちの携帯情報端末の利用方法などを、国や自治体等が公開しているデータと比較して問題を知り解決策やより適切な利用方法を選択する ・IDやパスワードの管理の必要性、推測されにくいパスワードや生体認証などの個人認証の必要性、ソフトウェアのセキュリティ更新プログラムを適用する必要性などを知る	
B コミュニケーションと情報デザイン	身近なメディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動	
	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア） 身近なメディアの基本的な特性とコミュニケーション手段の基本的な特徴について、その変遷を踏まえて知ること。 （イ） 身近にある情報デザインが人や社会に果たしている役割を知ること。 （ウ） 身近にある情報デザインから、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法を知り、表現する基礎的な技能を身に付けること。	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア） 身近なメディアの基本的な特性とコミュニケーション手段の基本的な特徴について、その変遷を踏まえて理解すること。 （イ） 身近にある情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解すること。 （ウ） 身近にある情報デザインから、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法を理解し表現する基礎的な技能を身に付けること。

内容	1 段階	2 段階
B コミュニケーションと情報デザイン	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）身近なメディアとコミュニケーション手段の関係を考えること。 （イ）コミュニケーションの目的に合わせて、必要な情報が伝わるような情報デザインを考えること。 （ウ）効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて、表現の仕方を工夫すること。	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）身近なメディアとコミュニケーション手段の関係を捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。 （イ）コミュニケーションの目的に合わせて、適切かつ効果的な情報デザインを考えること。 （ウ）効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて表現し、振り返り、表現を見直すこと。
	（具体的な内容の例） ・情報を正確かつ効果的に伝達するために、情報を表に整理したり、図やグラフによって可視化したり、ページレイアウト、情報の階層化、ハイパーリンクなどにより構造化したり、形態、色彩、光や材質などについて工夫したりして、情報デザインの考え方や方法を身に付ける、文字・静止画・動画・音声・グラフィックスなどの複数のメディアをコミュニケーションの目的と受け手の状況に応じて組み合わせて統合する ・静止画について、デジタルカメラで撮影する際に解像度に応じてファイルサイズが変化したり同じ解像度でもファイル形式を変えることで圧縮方法が変わってファイルサイズが変化したりするなど、画質とファイルサイズがトレードオフの関係になっていることを知る ・アプリケーションソフトウェアを活用した学校行事の案内、生徒会活動などで取り組まれる標語ポスター、学級新聞やWebページの作成などを行う ・ポスターやWebページを制作する際に、情報通信ネットワークを活用して参考となるデザインを集め、グループでの話し合いなどにより、より多くの製品を販売するためにデザインを選択したり、購入者に伝えたい情報を入れたり、関連する図や表を入れたりする	
C 情報ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目して、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを利用し、問題を知り、問題の解決に向けた活動	
	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア）情報通信ネットワークの基本的な仕組みや情報セキュリティを確保するための基本的な方法について知ること。 （イ）身近なデータを蓄積、管理、提供する基本的な方法、情報通信ネットワークを介した情報システムによるサービスの提供に関する基本的な仕組みと特徴について知ること。 （ウ）データを表現、蓄積するための基本的な表し方と、データを収集、整理する基本的な方法について知り、基礎的な技能を身に付けること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）情報通信ネットワークにおける情報セキュリティを確保する基本的な方法について考えること。 （イ）情報システムが提供するサービスの利用について考えること。 （ウ）データの収集、整理及び結果の表現の基本的な方法を適切に選択し、実行すること。	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア）情報通信ネットワークの基本的な仕組みや情報セキュリティを確保するための基本的な方法について理解すること。 （イ）身近なデータを蓄積、管理、提供する基本的な方法、情報通信ネットワークを介した情報システムによるサービスの提供に関する基本的な仕組みと特徴について理解すること。 （ウ）データを表現、蓄積するための基本的な表し方と、データを収集、整理、分析する基本的な方法について理解し、基礎的な技能を身に付けること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける情報セキュリティを確保する基本的な方法について考えること。 （イ）情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えること。 （ウ）データの収集、整理、分析及び結果の表現の基本的な方法を適切に選択し、実行し、振り返り、表現を見直すこと。
（具体的な内容の例） ・インターネット接続サービス、サーバ、アプリケーション及びオペレーティングシステムなどの情報通信ネットワークや情報システムの基本的な仕組みを知る ・校内LAN等の情報通信ネットワークの仕組みや、電子メールを送受信するときの情報の流れなどを知る ・携帯電話のアドレス帳、学校における進路情報データベース、図書館の蔵書管理・検索システム、電車等の座席予約システム、コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどのPOSシステム及び銀行ATMなどを利用するための方法を知る ・データの形式に関して、作成した文書、表やグラフ、画像、住所録などのデータを扱う ・作業製品の販売活動における売り上げなどのデータを整理する学習活動で、購入者のアンケート結果をグラフや表などを用いてデータを可視化して全体の傾向に気づいたり、問題を知ったりする ・優先LANと無線LANの違い及び無線LANにおいて情報セキュリティを確保する方法や、公衆無線LANを安全・安心に利用するための注意点について知る ・コンサートチケットの予約サービス、インターネットを介した在宅学習、防災情報などの情報提供サービスの利用を知る ・データ形式に関して、表形式以外の時系列データ、SNSなどにおいて個人と個人の繋がりを表現するためのデータ、項目（キー）と値（バリュー）をセットにして値を格納するキー・バリュー形式のデータを扱う		